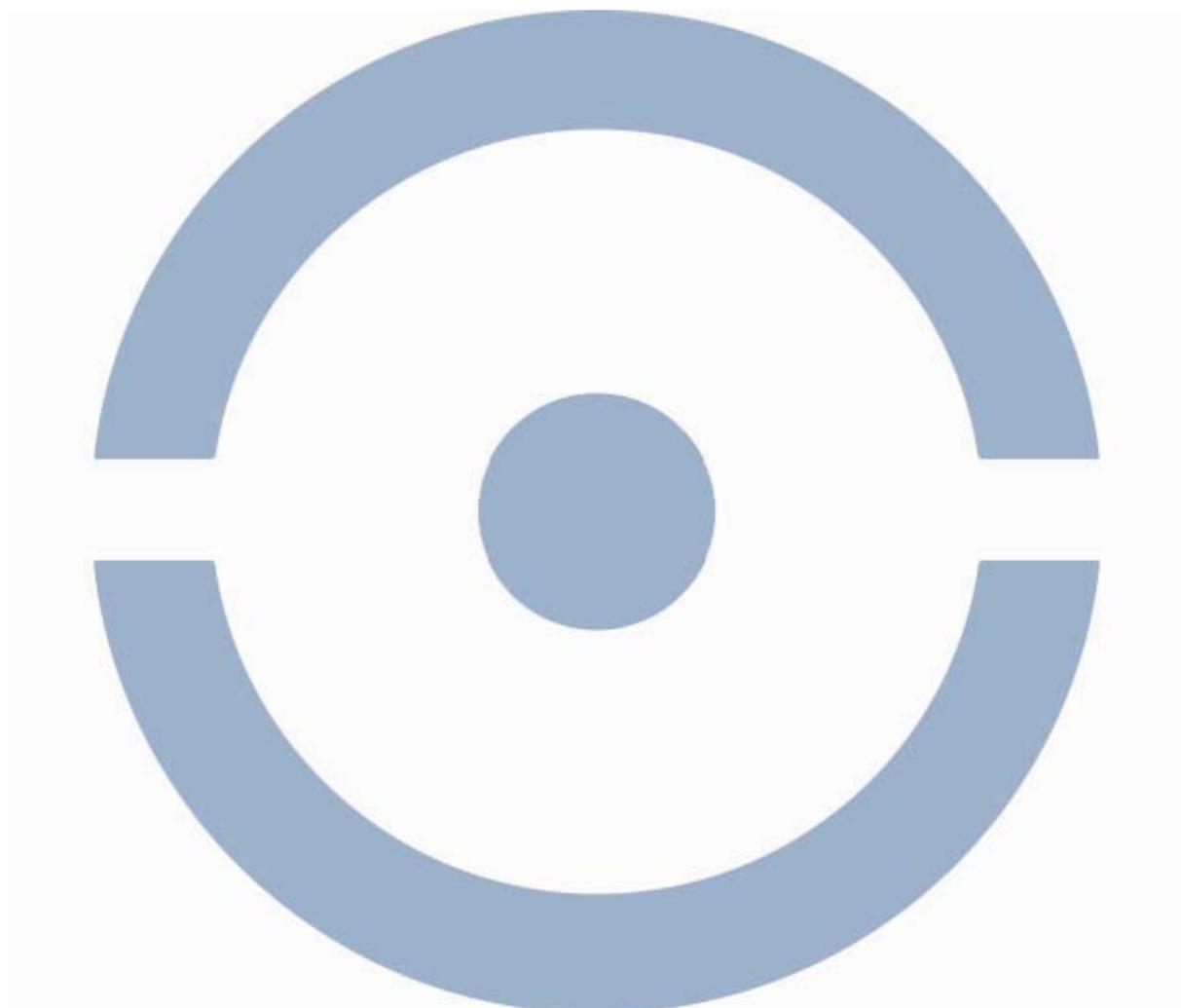


すべての人のための図書を製作する方法

「図書製作に携わる人々」のためのマニュアル



シッセル・ホフガード・スウェンセン
すべての人のための図書
ノルウェー

シッセル・ホフガード・スウェンセン:

Hvordan lage bok til alle?

Håndbok for bokarbeidere.

オスロ: 「すべての人のための図書」財団 (Leser søker bok) 2006 年

すべての人のための図書を製作する方法

「図書製作に携わる人々」のためのマニュアル

著者による翻訳

オスロ: 「すべての人のための図書」財団 (Leser søker bok) 2008 年

本冊子の英語版への翻訳は、ノルウェー外務省からの補助金により可能となった。

序文

書物を含む文化へのアクセスは、障害者権利条約によれば民主的な権利である。これは、読むことが困難な人を含め、すべての人に、自分が読める図書を手に入れる権利があるということである。読みやすく改変された図書は高価だが、これは著者や編集者が何らかの形の代償を必要としていることを意味する。しかし、さまざまなタイプの読者に適した改変を可能にするには、読むことの困難さにかかわる各種の原因と影響に関する知識も重要となってくる。

読みやすく改変された書物に関する出版物はほとんどない。読みやすく改変された教材に関しては、それよりもやや充実している。また、この分野における研究もほとんど進んでいない。このため、「すべての人のための図書」財団 (Leser søker bok) では、フィクションおよびノンフィクションの、読みやすく改変された書物の製作に携わる人々を支援するために、本冊子を作成することが得策であると考えた。これまで行われた研究は非常に少ないので、本冊子の大部分は経験に基づく内容となっている。

本冊子の意図するところは、秘策を記すことではない。そのようなものは存在しないからだ。しかし、フィクションおよびノンフィクションの両方に適用できるガイドラインを提供することは可能である。多くの道が、読書を愛する心へと通じているといえる。私たち同様、「逆風」の中で読書をしている人々も、興味を惹かれる内容を扱っている本や、読みたいと思わせてくれる本、そして自分自身の経験を強化してくれる本であれば、読みこなせる可能性が高い。これは多種多様な図書を揃える必要があるということだ。単一化ではなく多様性によって、すべての人のための図書が提供できるのだ。

本冊子はまず誰よりも著者、イラストレーター、そして出版社を対象としている。ただし、著者、イラストレーター等、特定して記すことはしていない。すべての図書は、これらの人々の協力の賜物だからである。

原稿の校正とコメントを担当してくれたニーナ・アスクヴィグ (Nina Askvig) とアン・マリット・グーダル (Anne Marit Godal) に感謝申し上げます。

2008年4月 オスロにて
シッセル・ホフガード・スウェンセン

目次

はじめに

読みやすく改変された書物とは？

シンプルなテキストの図書

見やすさ

読みやすさ

言葉づかい

ディスレクシアの人々

読むことに慣れていない読者

言語的少数派

自閉症の人々

シンプルな内容の図書

テキストのリライトと要約

オーディオブック

点字図書

大活字本

手話および手話のイラスト付きの図書

ブリス (BLISS) やピクトグラム (絵文字)、PCS つきの図書

挿絵

テキストなしの図書

どのようにしたらコミックストリップをさらにアクセシブルにできるのか？

布の本

指で読み、体験する本

さわる本—出版社の課題

図書の形態

書体—スク립ト体—活字体

文字の大きさと行の長さ

節と文分割

スペース

段組み

「テキストボックス」およびその他の効果的手段

背景と色彩

挿絵

紙

画面上で読む図書

表示

複数のグループを対象とした図書の製作は可能か？

あとがき

参考文献リスト

参考図書 (英語では利用できないもの)

はじめに

調査の結果、ノルウェーの人口のおよそ 30%が、一般のテキストの内容把握に困難を感じていることが明らかになった。これは、現代社会において仕事や日々の生活で要求される読字能力に関して、この人たちは、国際的な専門家によって不十分であると定義される能力しか持っていないことを意味している。（IALS－国際成人識字能力調査および PISA－OECD 生徒の学習到達度調査）

研究によれば、他の多くの国々でも同様な傾向が認められる。例えばスウェーデンでは、読み書きに深刻な問題を抱えている人が少なくとも 50 万人おり、200 万人のスウェーデン人が新聞の文章を読めないと推定される（アーレン 2005 年）。理由はさまざま、障害、ディスレクシア－十分な支援の欠如、不十分な言語スキル、社会状況、あるいは単に読書の練習不足などがあげられる。

読みの問題は予想以上に広い範囲にわたっているが、これは新たに判明したことではない。1970 年代および 80 年代には、西側諸国の人々がアクセシブルな図書および新聞への民主的な権利について語り始めていた。1980 年代には、国連障害者の 10 年（1983 年－1992 年）を経験した。この 10 年の経験が、「障害者の機会均等化に関する基準規則（1993 年）」の基盤となった。

基準規則 10 では、文化を扱っている。

「政府は都市部であれ農村部であれ、障害を持つ人自身のためのみならず、地域社会を豊かにするために、障害を持つ人がその創造的・芸術的・知的潜在可能性を利用する機会を持つよう保障すべきである。その活動例はダンス、音楽、文学、演劇、造形美術、絵画、彫刻である。」

2006 年にはこの活動の延長として、また活動の集大成として、国連総会が障害者権利条約を採択した。同条約第 30 条 1 「締約国は、障害のある人が他の者との平等を基礎として文化的な生活に参加する権利を認めるものとし、次のことを確保するためのすべての適切な措置をとる。

a) 障害のある人が、アクセシブルな様式を通じて文化的作品へのアクセスを享受すること。…」

<http://www.un.org/esa/socdev/enable/documents/tccconve.pdf>

障害者の権利は、2003年1月に「すべての人のための図書」財団が設立された理由の1つだった。「すべての人のための図書」財団は、白書No.40（2002年－2003年）『障害者に不利をもたらす障壁の削減（Reducing the handicapping barriers）』と、それに続く同じ名称の是正措置計画を政治的基盤としていた。

同時に、見てわかる障害がある人以外にも目を向けることが重要となってきた。障害者として定義することはできないが、多くの人を読むことに問題を抱えているからだ。これらの多数の人々には、文化的民主主義の視点から、そして有識者を求める政治的欲求から、多大な努力が求められる。これが、「すべての人のための図書」財団が、文化と教育の両方に注目している理由である。

白書No.48（2002年－2003年）『2014年に向けての文化的政治（Cultural politics towards 2014）』は、読みやすく改変された書物のための行動を求める最初の政治文書であった。「…あらゆる形態の読みの問題を抱える人々の役に立つ、読みやすく改変された書物の開発、製作および斡旋を手配しなければならない。」

つまり「すべての人のための図書」財団は広範な政治基盤を持ち、さまざまなターゲットグループのために活動しているといえる。その目的は、誰もが書物にアクセスできるようにすることである。これを達成するために、4つの分野で活動が進められている。

原稿の開発

「すべての人のための図書」財団は、さまざまな方法で読みやすく改変される、良質な原稿の開発を支援する。そして、著者およびイラストレーターに財政援助と専門的な支援を提供する。特別なテーマに関する図書が必要な場合は、プロジェクトを策定する。

図書の編集

図書の出版を手配する。読みやすく改変された書物の出版を希望する編集者に、財政援助と専門的な支援を行う。

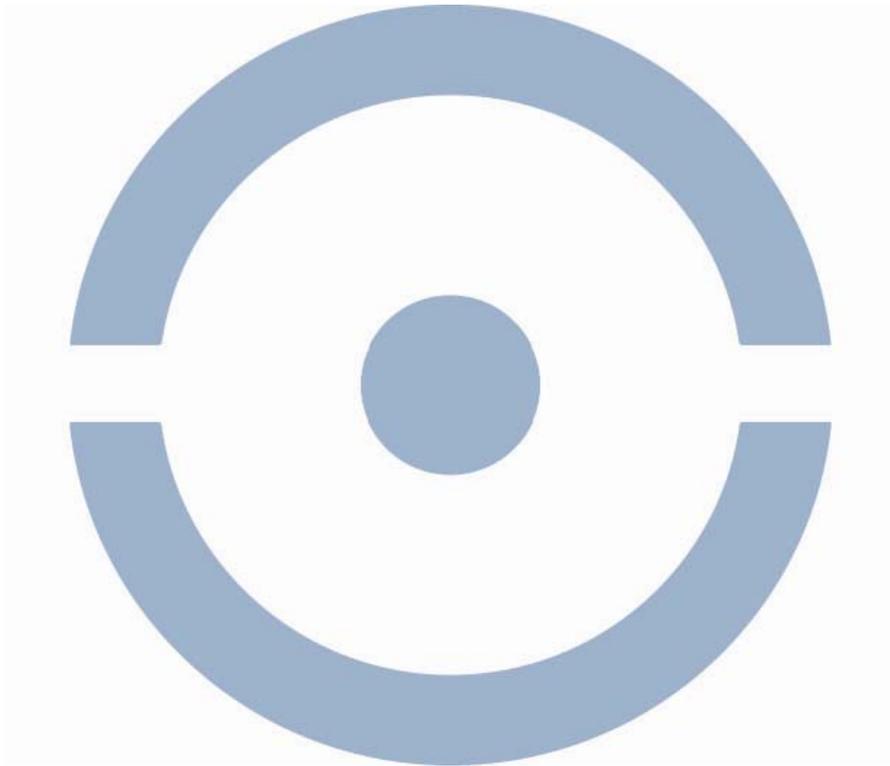
情報提供および供給

読みやすく改変された図書のリストに関する情報を『すべての人のための図書（Books for everyone）』というカタログと、「ブックサーチ（Booksearch）」というウェブサイト（<http://www.boksok.no>）を通じて提供する。さらに、書店や図書館で、これらの図書を目につきやすくし、また手に取りやすくするために、最大限の努力を払う。

図書館支援と読書支援

読みやすく改変された書物を必要としているすべての読者のために、図書館が図書を見つけられるよう、公共図書館の職員に情報提供し、図書館に対し財政支援を行う。また、図書館の読書サポーターのネットワークづくりを支援し、自力で読むことができない人のために読書サポーターによる朗読をしたり、読書会を立ち上げて利用者に読書への関心を持ってもらったりする。「すべての人のための図書」財団による支援は、老人ホーム、精神病患者のためのデイケアセンター、知的障害者ホーム、刑務所などさまざまな施設で必要とされている。

本冊子を始め、英語による情報を掲載している、「すべての人のための図書」財団のウェブサイト（www.lesersokerbok.no）をご覧ください。



「すべての人のための図書」財団のロゴ

読みやすく改変された書物 (adapted literature) とは？

質の高い、読みやすく改変された書物には、3つの際立った特徴がある。

1. 読者の特性に合わせ、その身体能力だけでなく、言語能力、知的能力、文化的能力および認知能力を考慮し、正しく機能するよう改変されたものでなければならない。
2. 読みやすく改変された書物には、高度な文芸芸術性が備わっていなければならない。
3. 読みやすく改変された書物は、できるだけ多くの読者が興味深いと感じられるような、インクルージョンを目指したものでなければならない。

(ライダーソン 2002年 p.17)

ニーナ・アスクヴィグ・ライダーソン (Nina Askvig Reidarson) は、2点目についてさらに詳しく、高度な文芸芸術性が備わっていれば、障害者にB級文学を調達してしまうことが防げると語っている。「…そして私は、こう付け加えたくもある。それは、作品と障害者の両方の名声を高めるだろうと。」

読むことが困難な人々のための図書を出版している多くの国々では、「読みやすい (easy-to-read)」という言葉を使用している。例えば、国際的な読みやすい図書ネットワーク (International easy-to-read network) があり、「すべての人のための図書」財団もそのメンバーとなっている。ノルウェーでは諸般の事情から、「読みやすく改変された (adapted)」という言葉を選んだ。

ノルウェーの出版社は、「読みやすい」という言葉を、全く異なるさまざまな図書を示すために使用している。多くの出版社はそれを、読み方を習い始めたばかりの子供向けの図書に使用しており、時には「読みやすく要約された」成人向けの読み物にも使用している。知的障害者のために改変された図書もまた、「読みやすい」と呼ばれている。つまり、この言葉はかなり不正確なのである。またこの言葉は、さまざまな改変手段のすべてを網羅するものではない。

さらに論じるなら、「読みやすい」図書は、誰にとっても読みやすいわけではないといえる。実は、それが書かれた対象となっている人々にとっても、読みやすいとはいえないかもしれない。それはただ「アクセシブル」であればよいとされている。

実際、読みやすく改変された書物は新しいものではない。これまで本が存在してきた間ずっと、そのような書物はさまざまな人々のために作られてきたのであった。今、私たちが試みていることは極めて単純で、私たちが製作する書物に、より多くのアクセシビリティのレベルと種類を導入しようということにすぎない。それは結局、開発と多様化、そして私たちの時代のニーズに合わせた改変を行うということなのである。

歴史全体を通じて、書物は排他から共生へと発展してきた。当初本は、教養のあるエリートのために書かれていたが、現在では多くの読者に届けられることを意図して書かれている。「すべての人のための図書」財団が読みやすく改変された書物について語るとき、それは、多種多様な読者を含めるということ、すなわち、できるだけ多くの人々に、書物の世界へのアクセスを提供するということである。

また同時に、それは書物の多様化を進めることでもあり、新たなジャンルが受け入れられつつある。例えば、児童文学がそれ自体グレードの高いジャンルとして受け入れられたのは、つい最近のことである。児童書の著者は、まだ誰もノーベル文学賞を受賞したことがないのは、大いに問題である。2005年、ノルウェーのブラーゲ賞 (Bragepris) が、コミックストリップ専門の賞を発表した。まだ成人向けの絵本の出版社や書店を探すのは難しいが、これも時間の問題だと私たちは信じている。

今日、読みやすくするための改変は、ある程度は必要である。私たちはコミュニケーションが新たな形態へと変わりつつある社会に暮らしている。大量の情報が膨らんでいき、それを受け手にわかるように正確に伝えることが重要である。読むことが苦手な読者のために、苦勞してテキストを改変すれば、あまりアクセシブルではないテキストを、時間をかけて読もうとはしない人々にも、それを読んでもらえるかもしれない。優れたユーザーインターフェースは、あらゆる人のために、さらに情報をアクセシブルにするのだ！

言いかえるなら、これは読みやすく改変された書物と「一般の」書物とを完全に区別するというわけではない。多くの一般の図書は、読むことに不慣れな読者にとってもアクセシブルであり、読みやすく改変された図書は、それがターゲットとしているグループ以外の多くの人々の興味もそそるであろう。

このように、特定の読者のために改変を行うことは重要である。図書の改変には多くの方法がある。さまざまな改変形態は、お互いを排除するのではなく、補完しあうであろう。

「すべての人のための図書」財団では、以下のメインカテゴリーを使用している。

- ・ シンプルなテキスト
- ・ シンプルな内容
- ・ オーディオブック
- ・ 大活字
- ・ 点字
- ・ 手話および手話のイラスト付き
- ・ ブリス (BLISS) やピクトグラム (絵文字)、PCS
- ・ 絵
- ・ さわる絵

学校の教科書もまた、フィクションおよびノンフィクションの図書と同じガイドラインに沿った改変が必要である。

以下の各章では、これらの改変をどのように行うかを論じる。その後、出版に関する章があり、最後に、できるだけ多くのターゲットグループのために、どのようにして図書をアクセシブルにしたらよいか、いくつか提案する。しかし、繰り返し申し上げたい。何も秘策はないのだ！

シンプルなテキストの図書

シンプルなテキストの図書は、一般のテキストを読むことには問題があるが、認知上の問題は何もない人に合わせて改変されている。このような人は、読書に慣れていなかったり、言語的少数派に所属していたり、ディスレクシアであったり、AD/HD（注意欠陥・多動性障害）であったり、あるいは注意が散漫になってしまうその他の問題を抱えていたりする。

読むことは、「**解読×意欲×理解**」という機能である。読むことは、文字と単語を解読でき、読む意欲があり、そして読んでいる内容を理解できることが前提となる。読むのが難しいのは、これらの条件のうち1つか2つ、あるいはすべてに問題があるためかもしれない。

「シンプルなテキスト」は、出版社が「読みやすい」と呼ぶものと一致することが多い。ノルウェーでは1950年代に、シンプルなテキストの図書が初めて出版された。現在、大手出版社のほとんどが、子供向けの読みやすい図書のシリーズを出している。読みやすい図書として分類されるための一般化された基準はない。出版社が本を市場に出すとき、そう表明し、通常その本に特別なロゴを付ける。この分野に関連のあるテーマを研究している学生たちに、このような図書を多数チェックさせた。すると、そのすべてが読みやすいわけではなかった。かなりの数の図書は読みやすいとはいえ、ある特定の年齢の子供たちに適しているというだけであった。私たちはこのようなシリーズの図書を推薦する際、「シンプルなテキスト」という言葉の条件を満たすと思われる作品だけを選んでいく。しかし時には、テーマが特に興味深い場合や、テキストが特に刺激的であるか、あるいは読む意欲をかき立てる作品であると考えた場合、十分に「シンプル」だとはいえない本を含めることもある。

スタヴァンゲル (Stavanger) にある読字研究センター (Centre for reading research) のインゴルヴ・オースタッド (Ingolv Austad) は、読みやすい図書について、次のような考えを (1994年の『読みやすい図書—どれだけ読みやすいのか? (Easy-to-read books - how easy are they to read)』という論文の中で) 述べている。

見やすさ—テキストは視覚的にアクセシブルであるか

読みやすさ (読む価値があること)—テキストは読む意欲をかき立て、読者の興味をとらえるか

言葉づかい—単語や文法構造の選択

見やすさ

印刷上のアクセシビリティ

印刷条件の選択は重要である。シンプルなテキストの図書は、比較的大きな活字で、ダブルスペースで印刷されるか、少なくとも通常よりは大きな活字で、行をあまり長くせずに、図を多めにし、スペースを多くとった「広々とした」レイアウトで印刷される。読むのが難しい人は、1つ1つの単語を読むことに集中しすぎて、文章のどこを読んでいるのかわからなくなってしまうため、右マージンを揃えない方法も役に立つであろう。右マージンが揃っていると、読者が文章のどこを読んでいるかを知る手がかりがほとんどなくなるからである。このため、私たちは右マージンを揃えない方法を推奨している。左マージンからのインデントも有効であろう。

行分割

これは意見の分かれる問題である。「狭苦しい地下室の階段を下りる (down the cramped cellar steps)」という節や「会議室 (conference room)」のような複合語は、最後まで記してから改行するべきだろうか？

あるいはこんな風に記すべきであろうか？

They went down the cramped
cellar steps.

(彼らは狭苦しい地下室の階段を下りて行った。)

All the people went into the conference
room.

(全員が会議室へ入って行った。)

確かではないが、これまでの経験からすると、知的障害者には最初の表現が最も適している。これは、新しい言語を学び始めた少数民族にとっても最適であるといえる。2番目の表現は、ディスレクシアの人にとって最適である。彼らは次の行へと「引き寄せられる」からである。とはいうものの、ターゲットグループが誰であれ、テキストを理解し難くする行分割は決して行ってはならない。

1つの文をあるページから別のページへとつなげる場合、あるいはさらに悪いことには、読者にページをめくらせて文が終わる場合、読むのが難しいすべての人にとって、不必要に複雑な事態となってしまう。これは、テキストを配置する際にきちんと解決しておかなければならない、もっとも重要なことの1つである。

節

いくつもの節を設けることは、テキストを魅力的にする。しかし、あまりに規則正しく節に分けてはいけない。そうすると、読者に詩や賛美歌の歌詞を連想させる場合があり、またさらに悪いことには、その本が極端に読みやすく見えてしまい、読者が不名誉に感じるからである。

読みやすさ

シンプルなテキストを必要としている人は、他の問題がない限り、シンプルな内容は必要ない。しかし、読むのが遅い読者が挑戦してみたいとは思えないほど厚い本でない方がよい。

読む動機付けは、解読能力と同様に重要である。このため、テーマが非常に面白く、よく書かれている本であることが極めて重要である。読むことが苦手な読者は、興味のない文章に感激することはない。ハリー・ポッターシリーズは、子供たちが「ヒット作」に出会ったとき、何を克服できるかを教えてくれた。

誰もが優れた読者になることはできないが、ほとんどの人は今よりもよい読者になることができる。ディスレクシアの人が、読むことを学ぶ努力を本当に必死に始めるきっかけとなった本について、言語療法士は何よりも驚くべき話を知っている。読者のニーズと興味を満足させる本を見つけられるかどうかの問題なのである。

言葉づかい

文

シンプルなテキストの図書では、著者は言葉づかいに非常に苦勞する。長く、ねじれた文と、難しく、長い言葉や外来語の無用な使用が、著者と読者を隔てる障壁になってはならない。複雑な文法構造も読みにくい。

従属節、特に挿入された従属節を避ける。しかし、このような単純化も行き過ぎてはならない。変化の少ない言葉づかいや、何の柔軟性もない言葉づかいで終わってしまう可能性があるからだ。

短い文は通常好ましいが、誰もがその使用技術をマスターしているわけではない。それは「主語・述語・目的語」、あるいは不完全な文の過剰使用に陥りやすい。読みやすく改変された書物では、多様な、そして生きた言葉づかいが不可欠である。

長い単語

子音（あるいは母音）をつなげた言葉は、多くの読者にとって障害となる。特にスカンジナビアの言語では子音の連続が多数認められるが、これは英語ほどハイフンを使用せず、単語をまとめてしまうからだともいえる。英語の”recurrent figure（主人公）”は、ノルウェー語では”gjennomgangsfigur”という。しかし英語にも、humpbacked（猫背の）、conscious（意識）、stewardship（管理）など、子音（および母音）がつながった「変わり者」が見つけられるだろう。

長すぎる単語も難しいだろう。単語は7文字以上にならないようにすべきだという者もいる。しかしディスレクシアの人の場合は、決して長い単語が最悪というわけではない。短い単語や、d、b、pという文字の方がはるかに難しいことが非常に多い。

長い単語にはハイフンが使用できる。ただしノルウェー語では、それはあまりよくない。これは読みやすく改変された図書である、と皆に知らせることになるからである。英語ではハイフンははるかに許容されている。ハイフンの使用に関する報告はさまざまで、それがよいという者もいれば、使用しても何ら重要な助けにはならないという者もいる。

読者に長い単語および/または難しい単語に慣れてほしいなら、もう1つ方法がある。文章の少し後の部分で同じ単語を繰り返せば、読者は最初に自分が考えた意味で正しいかどうかわかるであろう。もし正しければ、その単語が頭の中で「概念」となる可能性が高い。単語を説明することによって繰り返してもよいが、読者が馬鹿にされていると感じないように注意する。

短い単語

短い単語は、ディスレクシアの人にとって簡単であると信じがちであるが、それほどではない。先に述べたように、ディスレクシアの人にとっては、ある特定の文字を見分けることが問題なのである。彼らの多くは、短い単語を飛ばすことによってこの問題を解決している。だが、これが新たな問題を引き起こす。目立たない単語は、多くの場合、文章を結び付け、首尾一貫したわかりやすい文章にしてくれる。また目立たない単語は、文章に柔軟性をもたらす単語であることが多い。ディスレクシアの人の場合、練習が重要である。幸運にも、現在学校には、ディスレクシアの人向けの優れた訓練プログラムがある。

ディスレクシアの人々

数字はさまざまであるが、一般に人口の約5%はディスレクシアであると推定される。彼らのおもな問題は解読である。下に、ディスレクシアが原因で起こるすべての問題をリストにした。しかし覚えておいてほしい。まず何よりも、ディスレクシアの人の大部分は、ある程度は読めるようになること、そして「ディスレクシアの人すべて」が「これらの問題をすべて抱えている」わけでは決してないということ！

- 二重子音の問題
- 文字を混同し、いくつかの文字を見落とす
- 数字の順番を混同する
- bとd、tとd、kとg、oとuなどの違いを見分けられない、聞き分けられない場合がある
- 読むときも書くときも、語尾や目立たない単語、短い単語を抜かしてしまう
- 程度の差はあるが、読みにくい筆跡
- 長子音と短子音の識別が苦手
- いくつかの単語の発音を間違える
- 不明瞭な発話
- 朗読を嫌う
- 通常、読むのが遅い
- 文章の行をたどるのに苦労し、正しい行を見つけるのが難しい
- 紙面の文字が動いているように感じたり、文字が不鮮明でお互いにまじりあっているように感じたりする

- 自分で読むときは文章の理解に苦勞するが、他の人が朗読してくれるときはそうではない。
 - 読んでいるとき、疲れやすく、目や頭が痛くなることがある。
 - アルファベットや曜日の順番がわからない
 - 左右を混同する
 - 文字で書かれた短いメッセージの理解や即答が苦手
 - 名前を覚えるのが苦手
- (アーレン 1998 年)

恐ろしいリスト！これは入門として掲載した。作者はこれらすべてを考慮する必要はないが、このリストはディスレクシアの人が苦勞する「可能性がある」困難を示している。b と d と p の混同については、心に留めておくべきであろう。また、すべての語尾や、すべての目立たない単語が本当に必要かどうかをはっきりさせる必要もある。このような細かさが、読者によっては、さらなる困難の原因になるからだ。しかし前述のように、これは一種のバランスの問題である。あまりに多くを排除しすぎると、テキストの一貫性がなくなり、文学性も低下してしまう可能性がある。これは、読みやすく改変された書物の作者の多くが持つ弱点である。

読むことが不慣れな読者

読むことが不慣れな読者は、必ずしも特別な困難を抱えているわけではないが、読みの速度を上げられるほど十分な読書経験がこれまでなく、読むことが非常に骨の折れる、退屈な行為となってしまったのである。読むことに関連する3つの要素のうち、読む意欲という要素がもっとも重要である。私たちは興味を持てる分野を見つける必要がある。また、形態やジャンルも考慮しなければならない。コミックストリップ、短い物語、歴史小説、短編小説および成人向けの絵本などは、一般の小説ほど克服できないようには見えない。

AD/HD の人は、非常に多くの場合、読むことに不慣れな読者である。AD/HD には、実際には以下の3つの診断名が含まれる。

AD(D)：注意欠陥（障害）－深刻な注意困難

HD：多動性障害－深刻な多動および衝動的な行動の問題

ADHD：注意、衝動的な行動および多動の重大かつ継続的な問題

出典：ADHD 協会 (The ADHD-society)

彼らの注意力の持続時間は非常に短いので、ジャンルの選択と動機付けが大変重要となる。AD/HD をディスレクシアと結び付ける傾向があるが、これは一つには刑務所で行われた研究に基づいている。しかし、さらに最近の研究から、AD/HD とディスレクシアよりも、AD/HD と理解力の乏しさの方が、密接に関連していることがわかった。これは、受刑者の場合、解読能力ではなく言語理解力が乏しいためであろう。

言語的少数派

トリル・ストーヴェストレ (Toril Storvestre) は、少数民族を指導するノルウェーの教師である。「すべての人のための図書」財団のために作成した報告書 (ストーヴェストレ、2006 年) の中で、彼女は特にこう記している。

「『少数民族』は非常に多様な集団である！これは、彼らのニーズを定義し、この集団のための書物を検討する際に覚えておくべきもっとも重要な要素である。その国の言語を学ぼうとしているすべての人の「要求を満たしている」か否かが問題となる。それが第一言語である者もいれば、学び始める前に数ヶ国語を習得している者もいる。ほとんどアルファベットを書けない者もいれば、大学を卒業し、学習のテクニックと多くの学習経験を持ち、2、3カ月で新しい言語を学べる者もいる。」

言語、そして学歴の違いに加えて、この学生グループの文化的経験も多様である。これは内容とコンテキストの選択を難しくする。さまざまなテーマのテキストによって、道徳的・説教的にならないようにしながら、有用な情報を提供しなければならないからだ。新しい国の文化と「環境」について読むのは興味深いとはいえ、文学のテキストは、比較的普遍的に妥当なコンテキストでなければならない。「読みやすいとはどういうことか？」とストーヴェストレは問いかけ、オスロ大学のピア・ヴィステンダール（Pia Hvistendal）による調査結果の一部を発表している。

読みやすい：

- － 理解できるコンテキスト
- － ジャンルの明確な表示
- － 物語性のあるテキスト
- － 直接話法の多用
- － 具体的な言葉
- － 繰り返し

読みにくい：

- － 明確でないコンテキスト
- － 暗黙の理解が必要な知識
- － 論理的で理屈っぽいテキスト
- － 抽象的な言葉
- － 比喩
- － 隠喩の多用
- － 反語

ストーヴェストレはまた、少数民族向けの本の作者が、語学研修コースのカリキュラムと進度に関する確かな知識を持っていると都合がよいと記している。そしてもっとも重要なのは、語彙を知っていることである。知らない単語が詰め込まれていれば、どんなテキストでも読みやすくはなくなる。また、テキストに関係のある適切なイラストを入れることも重要である。このような本は幼稚であってはならない。それは人を見下しているようで、人を傷つける可能性がある。読みやすい図書の多くは、まさにそのような子供向けの図書なのである。

本は、学生にとっての言語モデルとなる。このため、シンプルな文構造と文法的な正確さを備えていなければならない。不完全な文の使用は制限されるべきである。また、連続す

る複数の文を、人称代名詞などの同じ品詞からはじめるのは、よい言葉づかいとはみなされない。

少数民族の間での言語と読みのスキルの大きな違いを考慮し、電子図書、あるいはさまざまなレベルの人が読むことができる図書など、多様化の可能性を探るべきである。

自閉症の人々

自閉症の人のための、適切な改変形態を見つけることは難しいであろう。自閉症の人は、重度の知的障害者から知能の高い人までさまざまだからである。その多くは際立った特徴を持っている。心理学的に不安にさせる内容でない限り、一般の図書を読むことができる人もいれば、シンプルなテキストの図書が必要な人もおり、またシンプルなテキストとシンプルな内容の図書を必要としている人もいる。自閉症の読者の中には、体の一部だけを示した図で動揺してしまう人もいる。体の残りの部分がなくなってしまったと考えることがあるからだ。

ノルウェーのオムニボックス (Omnipax) は、自閉症児とその親向けに製作された3冊の小さな本を出版した。残念ながらこれらの本は翻訳されていないが、下記の作品は特に、翻訳されれば興味深いであろう。

ミー・モーリンおよびマグネ・メドウス (Mie Mohlin and Magne Medhus) 『高機能自閉症とアスペルガー症候群—成人のための入門書 (High-functioning autism and Asperger syndrome - an introduction for grown-ups) 』
オスロ オムニボックス (Omnipax) 2005年
ISBN 82 530 2847 4

シンプルな内容の図書

シンプルな内容は、認知に問題のある人、すなわち、知的障害者、認知症の人、そして、一部の失語症の人に適した改変のタイプである。あえて言うが、これらの人々は、書く対象としてはもっとも難しい集団である。

ここで取り上げるのは、まったく読めるようにならない多くの人々である。このような人々のために、レベルの異なる図書を用意する。

- 極めて読みやすい図書
- 読みやすく改変されてはいるが、ほとんどの場合、読む際に支援者が必要な図書

知的障害者や認知症、あるいは失語症の人の読書を支援する読書リーダーには、2つの責任がある。それは、支援を通じて、読者に経験と冒険へのアクセスを提供することと、同時に、読んでみようと思えるような刺激を与えることである。

失語症の人の多くは、大部分の言葉を失っている。しかし、たとえ言うことはほとんど意味をなさない場合が非常に多くても、彼らはたくさんのかたちを理解できるのである。失語症の人にもっともふさわしい図書は、シンプルなイラストが1つの単語と一緒に載っているもので、これが言葉をもう一度覚えるのに役立つであろう。彼らは多くの場合、自力で読むことが難しいので、読み聞かせてもらうことが重要である。

シンプルな内容に関して、程度の差はあるが、認知に問題のある人が理解しにくいことがいくつかある。

- 隠喩
- 遠く離れた場所
- 把握しきれないほど大勢の登場人物
- 脱線することが多い話の筋
- 時間順でない説明
- 大きな数
- 珍しい単語
- 略語

しかしここでもいえるのは、例外のない規則はない、ということである。

知的障害者は、他の人が通常経験するほど多くのことを経験していない。認知症の人は、あまりに多くのことを忘れてしまったので、単語や概念がほとんどわからない。このため作者はテーマの選択が大きく限られるように感じてしまう。しかし必ずしもその必要はなく、選択の幅は広い。知的障害者は、他のすべての人と同様に、特別な関心事や趣味を持っている。知的障害者の知識や理解力、やる気の高さを、教師が過小評価していることがよくある。認知症の人の場合は、はるか昔まで十分にさかのぼれば、彼らが「くつろいでいる姿を見る」ことができるであろう。昔のヒット曲や実際に使われていた品物も役に立つだろう。

これに関連して、知的障害者とともに活動しているベテランの1人の言葉を引用するのは、今がちょうどよいタイミングであろう。スウェーデンの心理学者、イングリッド・リルジョス（Ingrid Liljeröth）の言葉である。「誰もが、障害の程度に関わらず、何かを経験することができる。そして十分な経験ののち、しばらくすると自分が経験したことを理解することができる。さらにその後、自分が経験し、理解したことを表現できるようになるだろう。」（1973年デンマークのアーhus（Århus）における会議にて）

シンプルな内容の図書はまた、テキストもシンプルでなければならない。シンプルなテキストのための一般原則に加え、これらの人々のために書くときには覚えておかなければならない、その他の言語事象がある。他のグループのために書く場合は、現在の文法規則に従わなければならない。だが認知に問題のある人のために書く場合は、以下は使用しない方がよい。

- 複雑な属格
- 受動態および分詞
- 非人称代名詞

文分割について、このグループの読者の多くは、文中の節を分割しない方が読みやすいと考えている。その方が、読んでいる内容の要点がつかみやすいからである。

長い単語は認知に問題のある人にとって難しい場合がある。このグループを対象とした執筆ではもっとも経験の長いノルウェー人作家のリヴ・リクター・リッケンボルグ（Liv Riktor Lykkenborg）は、長い単語に関してある技を持っている。

ペール（Per）とアイダ（Ida）は練習中

Me-me-me

mete-oro-logi-cal（気象の）

In-in-sti

tute-tute-tute（機関）

Mete-oro-logi-cal

in-sti-tute（気象庁）

リヴ・リクトール・リッケンボルグ『晴れの日になるかしら？（Blir det sol?/Will it be a Sunny Day?）』

オスロ ギルデンダール（Gyldendal）1968年

彼女の知的障害者向けの本は、ノルウェー国内に限らず、他の作家のテンプレートのようなものとなった。彼女の本はいくつかのレベルに分けて作られている。短いテキストの作品と、長めのテキストの作品があり、短いテキストの作品は多くの場合、挿絵にテキストがついている。章見出しもテキストとして読むことができる。中には、挿絵で物語全体を語っている作品もいくつかある。さらに彼女の本は、オーディオブックとしても発売されており、非常に遅い速度と通常の速度の2種類がある。

フィンランド人作家のビルギッタ・ボート (Birgitta Boucht) は、シンプルな内容の図書についてこう記している。「これは特別なジャンルである。テキストは短い行で構成されているが、詩にはなっていない。これらの本には、説明のない難しい単語は一切ない。具体的であり、時系列に沿っている。浜辺の石のように清潔である。印刷に出される前に、それは多くの波で洗われてきた。つまり、このテキストを書いた人は、あらゆる不要な単語、あらゆる下手な表現、そして理解不可能なすべてのことを、削り取り、すりつぶし、洗い清めたということだ。

しかし、あとに残されたのはおとぎ話であり、言葉のきらめきである。それは語られるのではなく、行間にほのかに見ることができる。さらに残っているのは、悲しみと喜び、愛、友情など、「一般の」フィクションの本に見つけられることすべてである。」(筆者訳)
(『読みやすいとはどういうことか?』 <http://www.papunet/ll-center/38-0.html>)

知的障害者が自力で読める本の執筆は「難しい」。作者は、言葉選びに精を出さなければならぬ。しかし、このような図書を実現することは大変重要である。私たちは知的障害者に読める喜びを贈らなければならない。



参考文献

『読みやすい図書のための IFLA 指針 (Guidelines for Easy-to-Read Materials)』
ブロール・I・トロンバック (Bror I. Tronbacke,) 編著
オランダ ハーグ IFLA 出版 (IFLA publication) 1999 年
ISBN 90 70916 6 49 (publications@ifla.org より注文可能)

テキストのリライトと要約

オリジナルテキストの要約版という形でのテキストの簡約化は早くから存在するが、語彙と文法の系統的な平易化は非常に新しい。

「すべての人のための図書」という目標を達成するためには、多様な形態の改変が必要である。シンプルなテキストとシンプルな内容が必要な人に加えて、ブリス (BLISS) やピクトグラム (絵文字)、オーディオブック、手話などが必要な人もいる。これらの特別な形態については後ほど改めて述べる。本章では、(二重の意味で)「重い本」を読み始める気になれない人が読めるように、本をリライトすることについて論じる。

テキストの平易化は、常に議論的となってきた。言葉の平易化について語るとき、それは言語基準から外れていくことになるので、言語能力の低下を招くといわれてきた。言葉と内容の両方を変える場合、多くの人々は、著者のオリジナルテキストにそのようなことをするのは不正であるという。スウェーデンの読みやすい図書センター (the Centre for Easy-to-Read) は、スウェーデンの古典をリライトしたことで批判されてきた。それでもなお、これを行うことは、できる限り多くの人々が文化遺産に触れ、会話についていけるようにするので、よいことである。それはインクルージョンなのだ。

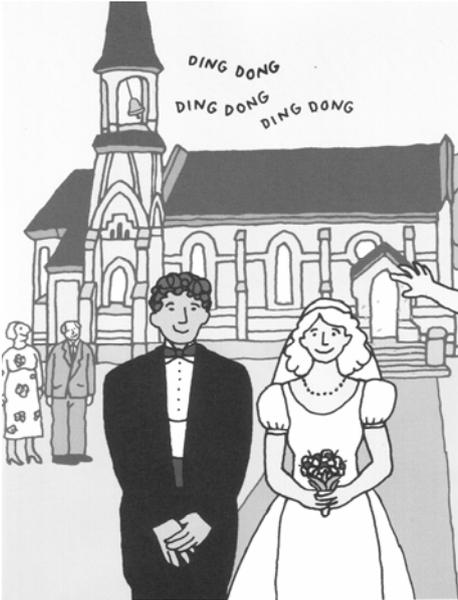
現代の作家の場合、話は別だ。彼らは自分自身の利益を図るべく存在し、自分の本をリライトしてほしいか否かを選択できる。自分自身でリライトしたい者もいれば、他の作家に任せる者もいる。このような要約版は、スウェーデンの読みやすい図書の出版社 (LL-Förlaget) が出している本の中で、もっとも人気が高い。

リライトにはさまざまなターゲットグループが想定されるが、少なくとも古典に関しては、誰もが皆、よりシンプルな言葉づかいを必要としている。内容については、よりシンプルな内容を必要とする読者と、単にテキストの量が少ない本を必要としている読者とがいる。後者に対しては、本を2、3冊の薄い本に分けることが有効な場合もある。

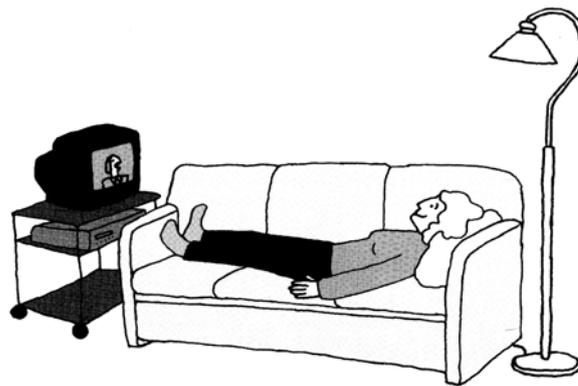
テキストを短くするにはいくつか方法がある。ページごとにテキストを要約することもできるし、本筋だけを残して枝葉末節を削除することもできる。あるいはその中間も可能である。また、本のエッセンスは残しながら、自分自身の簡単な言葉で物語を語ったバージョンを作ることでもできる。全く異なる方法として、絵を使ったり、漫画にしたりして物語を作り直すこともできる。ただし、語り直しと作り直しの違いを理解することが不可欠である。どの方法を選ぶかは、どのようにして、その本の文学性を維持しながら、なおかつ「ターゲットグループ」に提供するかによる。しかし、誰かが著作権を所有していることは覚えておかなければならない。

別のタイプの平易化

ヨハンネ・エミリー・アンダーセン (Johanne Emilie Andersen) は、知的障害のある若者のために、『恋するジュリー (Julie is in love)』という小さな本を書いた。左側のページには、挿絵とともにシンプルなテキストがあり、ジュリーの日々の生活が語られる。右側には、ジュリーが夢見ていることが、テキストなしで挿絵だけで描かれている。夢と現実の対比である。



ヨハンネ・エミリー・アンダーセン
『恋するジュリー (Julie er forelsket/Julie is in love)』
オスロ ソラム (Solum) 2004年



Og når hun ser på TV ...

(そしてテレビを見ているとき)

オーディオブック

近年、オーディオブックはますます一般的になってきている。それは DAISY によるところが大きい。DAISY は、デジタルアクセシブル情報システム (Digital Accessible Information System) の略語で、現在オーディオブックのためのもっともすぐれた改変システムである。多くの国々では、程度の差はあるが、DAISY がカセットテープに取って代わった。DAISY フォーマットの利点は、以下のとおりである。

- － 図書の中でナビゲーションしやすい。
 - ・ ページ
 - ・ 見出し
 - ・ 文
 - ・ ブックマーク
 - ・ テキスト検索
- － 図書全体を通常 1 枚の CD-ROM にして配布できる。
- － 音声と一緒にテキスト、画像、映像を利用できる。

DAISY フォーマットでは、音声を 50 時間まで録音できる。このフォーマットはオープンスタンダード (HTML/XML/SMIL) に準拠しており、技術の進歩に合わせて調整できる。例えば、いつでも音声圧縮に最適な技術を選ぶことができる。

DAISY にはユニバーサルデザインが適用されており、全盲の人、中度の弱視の人、ディスレクシアの人、そしてあなたや私と、すべての人に適している！しかし、その使用には特別なシステムが必要である。それは、オーディオプレーヤーか、CD-ROM にアクセスできる PC、オーディオカード、あるいは Mp プレーヤー、ビクター・リーダー・ソフト (Victor Reader Soft)、TPB リーダーなどの特別なプログラムである。また、使用法の短期研修が必要なこともある。

フルテキストの図書には、音声とテキストの両方が入っている。つまり、このような図書の再生時には、テキストの読み上げと同時に、画面上でもテキストを見られるということである。音声とテキストは同期しており、自分で読み上げ速度を選ぶことができる。読み上げられるテキストは、一定の間隔をあけて表示され、画面上でたどりやすくなっている。また、文字の色と大きさを選ぶこともできる。これは、ディスレクシアの人や、少数民族の人など、読むことが難しい多くの人々にとって、大きな利点である。DAISY は進歩し続けているシステムである。特に、読むことが苦手な読者や、認知に問題のある読者、あるいは身体障害者などのために、改善が試みられている。

「すべての人のための図書」財団は、一般のオーディオブックの支援はしていないが、特別なターゲットグループのための図書は支援している。このような図書では、図書の内容をわかりやすくするために、動物の声、赤ちゃんの泣き声、通りの騒音などの効果音を入れることもある。ノルウェーには、ノルウェー視覚障害者図書館 (NLB) という特別な図書館があり、録音図書と点字図書の製作と配布の責任を負っている。

点字図書

点字は、印刷字を読めない全盲および重度の弱視の人のための改変手段である。点字は全盲の若きフランス人、ルイ・ブライユ (Louis Braille) によって開発された。先天性の視覚障害者と、後天的に視力を失った人とは、大きな違いがある。高齢者が視覚障害者になった場合、点字を教えるのは難しいかもしれない。彼らはオーディオブックの方を好む。

インクルーシブな社会においては、視覚障害者以外の人でも読める点字図書の製作が重要なポイントとなる。これはおもに子供たちに関わることである。NLB は綴じ込みつきの本を数冊製作した。挿絵のページとテキストのページとの間に綴じ込んだ透明なプラスチックのシートに点字を印刷する。これらの本は、目が見えない子供に読み聞かせをしたいと考える、目が見える親に適している。点字図書の挿絵を描く場合は、さわる絵にしなければならない。

上記のように、全盲および重度の弱視の人のための図書の製作は、おもに NLB が担当しているが、新しい技術を試すときなど、場合によっては、「すべての人のための図書」財団が支援することもある。字を大きくしたり、語間・行間スペースを大きくしたりと、点字図書を改変する場合も同様である。

さらに、ピンディスプレイがあれば、視覚障害者は現代技術により、PC 上で電子点字図書を読むことができる、と付け加えておくべきであろう。電子点字図書はまた、音声に変換することもできる。

大活字本

弱視の人のための大活字本は、一般の図書よりも文字が大きく、語間と行間が広がっている。これは他の読者にとっても役に立つ場合がある。ノルウェーの視覚障害者団体によれば、一般読者向けのテキストでは、活字サイズの最低基準は 12 ポイントとなっている。

弱視の人にとっては、14 ポイントあるいは 16 ポイントの方がよい。「大活字本」という言葉を使用するときは、14 ポイント以上、行間はダブルスペース、語間は通常よりも広くとり、「クリーンな」書体、すなわちセリフが付いていない、均一な太さの文字を使用する。キャプションについてもこれは同様である。

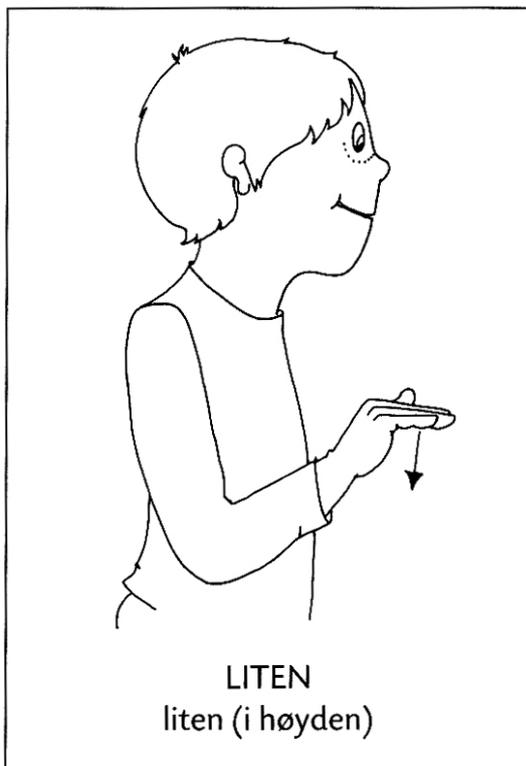
16 ポイントよりも大きな活字を使用する必要はほとんどない。活字を拡大する読書補助器具を使用している人は、一度に 2、3 語しか見えないので、大きすぎる文字は難しいからである。サボン (Sabon) の文字サイズ 13.5 ポイントで行間 19 ポイント、あるいはタイムズ (Times) の 15 ポイントは、ともに適切である。

「すべての人のための図書」財団では、弱視の成人読者向け小説などの大活字本の製作を支援している。

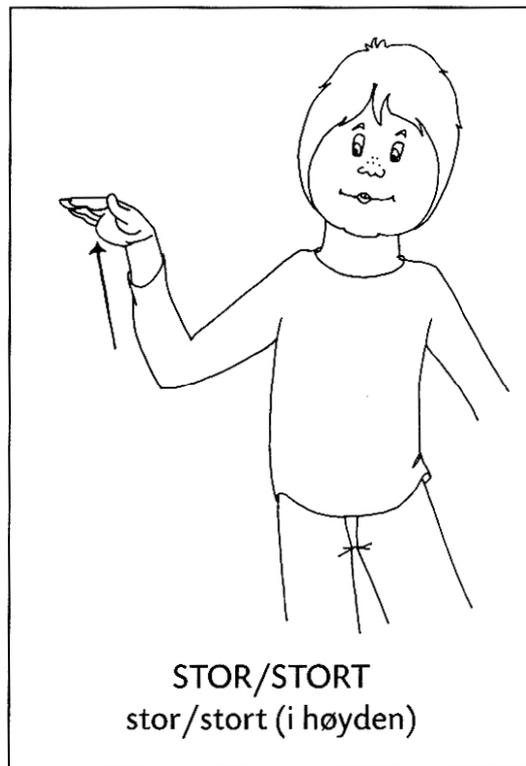
手話および手話のイラスト付きの図書

これはおもに聴覚障害者のための改変である。しかし手話は、語彙が限られている知的障害者などにとっても、通常の発話を補完する手段となる。

聴覚障害者の手話は、独自の文法と構文を持つ視覚的な言語である。ボディーランゲージと模倣がこの言語のもっとも重要な部分で、これによって話している内容の意味を伝えなければならない。手話は、「手話つきの単語」、つまり手話と単語を組み合わせた手話の絵と混同されてはならない。手話は、聴覚障害者が単語と概念を学ぶ主要な手段である。それは聴覚障害者の母国語なのだ。したがって聴覚障害児には、手話を第一言語とする権利がある。



低い（背丈）



大きい/高い（背丈）

聴覚障害のある青年や成人でも一般の文字を読むことができるが、彼らが手話による文学にもアクセスできるようにすることも重要である。彼らは聞こえの悪さが原因で話し言葉に問題があるので、一般の印刷されたテキストを読むのは難しいと感じることが多い。そこで彼らの多くは、CD-ROM や DVD、またはビデオに収録された、聴覚障害者のために手話で語られている図書を読む方を好む。

「手話のイラスト付きの図書」とは、手話と単語を組み合わせた絵が載っている図書である。これらは、手話が言語だといえることを教えてくれる。これらの図書は、幼稚園で人気が高く、聞こえる子供たちと聞こえない子供たちのコミュニケーションを促進し、インクルージョンを進める要因となっている。手話の図書は現在さらに重要となってきたが、これは、耳がほとんど聞こえない子供たちが、聞こえを強化するために耳に電子補助機器を入れていることがあるからである。これは人工内耳（CI）と呼ばれる。このような子供たちの聞こえは、依然としてやや悪いため、話し言葉をサポートするために手話を使用するのはよいことである。当然、彼らは手話を学ぶ権利も持たなければならない。

前述のように、知的障害者もまた手話の絵から恩恵を受けることができる。彼らのコミュニケーション能力の発達を助けるのは、言葉の詳しい説明と劇的な表現であるといえる。

ノルウェーでは、モラー能力開発センター（Møller Competence Centre）が、手話の図書の開発と出版を担当している。同センターでは、聴覚障害のある若い人向けに「ライティングキャンプ」を実施しており、その結果、数冊の面白い本が生まれた。

ブリス (BLISS) やピクトグラム (絵文字)、PCS つきの図書

ブリス、ピクトグラムおよび PCS (Picture Communication Symbols) は、補助・代替コミュニケーションで使用される、図によるコミュニケーションシステムである。これらは、普通の文字を理解したり使用したりすることができない人でも「読む」ことができる。

これらの代替コミュニケーションシステムは、例えば話すことができない人によって使用される。これには、発話器官のコントロールができない脳性麻痺の人も含められる。ブリスサインとピクトグラムのボードがあり、これを使って個々のシンボルを指差すことにより、コミュニケーションをとる。これらのボードには電子版もあり、重度の身体障害者でも適切なシンボルを指差すことができるように改善されている。

ブリス

ブリスはもともと、オーストリアのチャールズ・ブリス (Charles Bliss) によって開発された。彼は、さまざまな国の人がお互いにコミュニケーションをとることができる、国際的な書き言葉を開発したいと考えた。ブリスは、チャールズ・ブリスが願っていたような、平和を推進する国際的に重要な役割を担うことは決してなかったが、機能的能力の低下が見られる数多くの人々にとって、優れた支援手段となった。

特別支援教育修士のアストリ・ホルゲーセン (Astri Holgersen) は、ブリスの使用について、次のように述べている。「ブリスがノルウェーに導入されたとき、誰よりも先にそれを使い始めたのは、大勢の脳性麻痺の子供と若者だった。彼らは 1980 年代に、ピクトグラムや PCS などの、さらにシンプルなシステムを使い始めたのだが、その後はブリスの使用が増加した。これは一つには、このシステムが言語発達の大きな可能性を秘めているからである。またそれは、読み方の学習や言語訓練の際にサポートとして使用される。だが私は、ブリスは本来もっと使用されるべきであるが、それほど多くは活用されていないと思う。これはブリスが特別支援担当教師たちに十分知られていないからである。私たちは専門文献や技術的可能性に関する十分な知識を持ち合わせていない。

ブリスは国際的な言語で、ノルウェーのブリスユーザーは、ブリスを使用している他国の人とコミュニケーションをとることができる。それは常に変化し続けている言語で、新たなシンボルが取り入れられていく。現時点でおよそ 4000 個のシンボルが存在する。

ブリス標準ボードは、6 つの部分に色分けされた基盤の目のような構成となっている。色は自由に選ばれる。色を付ける理由は、ボード上でシンボルを見つけやすくするためである。色は品詞ごとに決まっている。

灰色の部分は、慣用句や助詞、指示語

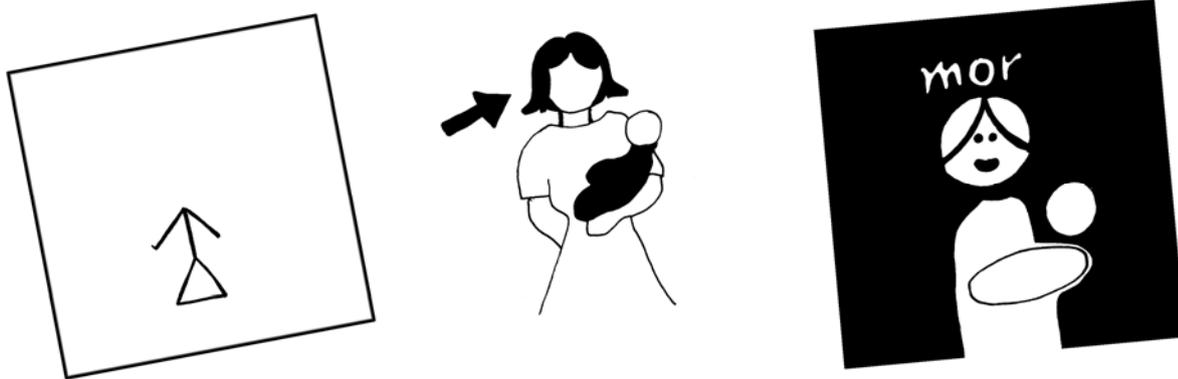
白い部分は、前置詞と「目立たない単語」

青い部分は、人

赤い部分は、動詞

緑の部分は、形容詞と副詞
黄色の部分は、名詞

ブリスは視覚的な表示システムで、文字の代わりに論理的な意味上のまとまりで、単語や概念が表現される。このシステムには、抽象的な概念と具体的な概念のシンボルが含まれている。それらは新しい概念を形成するために組み合わせられる場合もある。さまざまなシンボルを分析すれば、個々の単語よりもはるかに正確な内容を把握することができる。これが、ブリスを他のグラフィカルシステムとは異なるものとしている。ブリスは言語として分類できる。」（トロンドハイム（Trondheim）2006年―「すべての人のための図書」財団）



「お母さん」（ブリス）

「お母さん」（PCS）

「お母さん」（ピクトグラム）

ピクトグラム

スバス・マハラジャ（Subhas Maharajah）はピクトグラムの発案者である。彼はカナダの知的障害者にブリスを教えようと取り組んだが、成功しなかった。そこで黒地に白で描かれた様式化された絵による独自のコミュニケーションシステムを開発した。ピクトグラムが表現する言葉は、絵の上に白字で書かれる。

ピクトグラムで本を作ることは可能である。これはスウェーデンで実施され、おとぎ話の本や子供向けの本が2、3冊作られた。スウェーデンにはピクトグラムの構文に関する論文があり、その筆者はピクトグラムを「抽象へ向かう具体的言語」と特徴づけている。

（マン・リデン『ピクトグラムの構文（Pictogrammens syntax/The syntax of pictograms）』スペシャルペダゴジック（Spesialpedagogikk）7/1988）

その他のシステム：PCS

ブリスとピクトグラムは、もっともよく知られているシステムであるが、ピクトグラムほどシンボルの様式化が進んでいないPCS（Picture Communication symbols）も、広く使用されている。ピクトグラムのシンボルはたった400個から500個しかないが、PCSシンボ

ルは 3000 個もある。その多くは他のコミュニケーションシステムから取り入れられたものである。いくつかのシステムが使用されており、あらゆるタイプのシンボルと絵に利用できる、コンピューターを利用したコミュニケーションエイドとライティングエイドも開発されている。（PCSIに関するさらに詳しい情報は、[www. Mayer-Johnson. com/](http://www.Mayer-Johnson.com/)を参照。）

挿絵

図書の中の挿絵やイラストは、多くの機能を備えているといえる。それらはインスピレーションの源であったり、テキストの内容を詳細に伝えたり、説明して理解を助けたり、読み続けるための刺激となったり、休みを提供したり、何かを教えたりしてくれる。これらの機能の中から1つ以上を選ぶことができるが、それは意識的に選択されなければならない。

読みやすく改変された図書のためのイラストの書き方について、一般的なアドバイスをすることは不可能である。その図書が誰のために改変されるかが問題だからである。

シンプルなテキストの図書の読者は、通常、特別なイラストを必要としないが、一般の図書よりもイラストが多い方がよい。少数民族出身の読者にとっては、イラストで知らない言葉や概念を説明しているときは特に、それがあった方が理解しやすい。イラストの形態については考慮する必要はないが、描写したい内容については、きちんと計画を立てるべきである。

自閉症の人のためにイラストを描く際には、例えば2つの目だけを描くなど、体の一部を切り離して示すことは心理学的に不適切であると考えられている。自閉症の人の中には、それをそのまま、つまり体から切り離された2つの目として見る場合があるからだ。これは自閉症の人すべてに当てはまるわけではない。

読みやすく改変されたイラストに関して私たちがよく受ける質問の多くは、知的障害者のための図書に関するものである。1つ確かなのは、シンプルな内容の図書を必要とするすべての人にとって、イラストを数多く入れるのが重要であるということだ。

挿絵は図書を読みやすくできるが、同時に混乱を招く場合もある。半分の自転車を見たら、私たちはそれがその絵に登場してくるのだと認識するが、認知上の欠陥がある人は、それを壊れた自転車だと考えるかもしれない。細かいところにこだわって、全体を把握しない人もいる。このような人たちはすべてが、同じものを見ているのではないということを強調しておく必要がある。それは特に経験の問題である。また、知的障害者は現代っ子であるということ覚えておくのが賢明だ。彼らは、極めて高度な絵言葉を理解できるようにしてくれるテレビを見るのが好きなのである。

数年前私は、知的障害者が一連の絵をどのように解釈するかということに関するプロジェクトを実施した。被験者の1人は他の被験者よりも、絵の理解においてはるかに優れていた。彼の理解力が非常に高いので私が驚いていることに彼は気づき、「写真を撮るのが私の趣味です」と説明してくれた。つまり、例えば全体像を見ることのように、知的障害者にとって普通は難しいことが、彼には簡単だったのだ。

テキストと同じように挿絵の場合も、通常、このターゲットグループは、隠喩の理解を難しいと感じる。しかし一方で、彼らは絵の雰囲気を感じることができ、それがテキストの理解を深めるのに役立つ。彼らにとって、テキストが首尾一貫していることが重要であるが、それは挿絵についても同様なのである。

かなり多くの方は、子供がよくそうであるように、わかりやすい、はっきりとした輪郭の原色の絵がもっともよく理解できる。しかし、このことから彼らをお子と考へてはならない。彼らは認知に欠陥があるかもしれないが、感情と経験は実年齢と合致しており、イラストもまたそうあるべきなのだ。

私はまた写真の方が絵よりも理解しやすいかどうかを解明しようとしてみた。結果は驚くには当たらなかった。最重度の障害者は、写真、あるいは非常に写実的な絵を好んだ。しかし彼らの中には、絵が何か事物などを表現していることを理解しない者もあった。ある程度までは、これを彼らの一部に教えることもできた。私はまた「オレンジがいつオレンジになるか」を解明しようとしてみた。彼らのほとんどは、オレンジの色が必要であった。ごつごつした表面、そして葉柄の跡を見るだけは十分ではなかった。

残念ながら若者や成人向けの絵本はほとんどない。しかし私はこれらの若者に、ブラジル人アーティストのフアレス・マシャド (Juarez Machado) の本を2、3冊 (“*Ida e volta*” および “*Domingo manha*”) 見せた。彼らはこれらの本から大いに刺激を受けた。1人は、私たち (親と教師) が考へていた以上に、はるかに多くの言葉を知っていることを示してくれた。それは質の高い芸術が真に重要であることの証であった。

改変された絵—いくつかの例

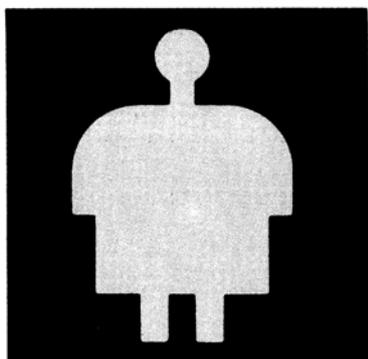
いくつかの絵は、事実を説明することだけを意図している。読みやすく改変された家庭科の図書のシリーズの中で、私たちはエネルギー量について説明しようとした。結局、棒グラフを書き、食物の写真でグラフが表している内容を示すことにした。また、ある調理法が太る原因となるものか、痩せるためのものか、あるいは「その中間」なのかを伝えるために、とても痩せている人、平均的な人、そしてとても太っている人のピクトグラムのようなシンボルをいくつか作成した。

とても太っている人

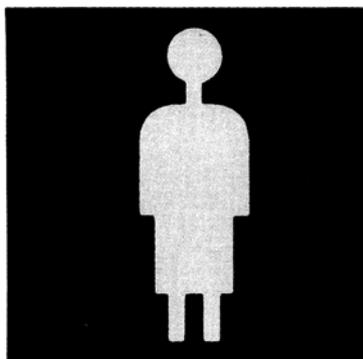
平均的な人

とても痩せている人

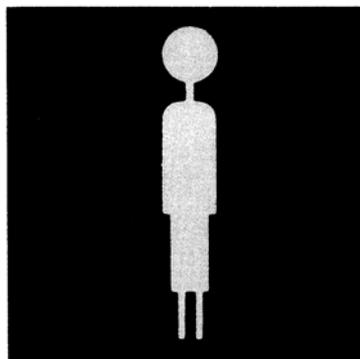
Du kan spise for mye



passee



for lite



感情に関する図書のシリーズは、怒り、絶望、孤独…の表情以外はページに載せず、テキストはないといっても同然の方法で改変された。

アンナ・フィスケ (Anna Fiske)
『怒り (Sinne)』
オスロ ソラム (Solum) 2005 年



突然、怒ることがある

テキストなしの図書

テキストなしの図書は、通常子供向けである。しかしそのほかにも、テキストなしの本を楽しめる人は多い。これまで本を読んだことのない多くの若者に、絵のある物語が他の本への扉を開いてくれるかもしれない。それは大抵の場合、テキストが少しだけついているコミックストリップである。それ以外にも、単にテキストのない絵本を「読む」のが好きだという人もいる。そのような本は、「的確に要領を得て」いて、それでいてなお波乱万丈の物語を語ってくれるからだ。

しかし、最大のターゲットグループは知的障害者である。たとえ読むことができなくても、彼らは絵物語を理解することはできる。そしてあちこちに言葉を入れれば、彼らの言葉と文字への興味を引き出せるかもしれない。そのほかに絵本が役に立つ人として、認知症の人がいる。図書を使用するとき、昔の出来事や活動を思い出させるように、絵に関連のある物をいくつか見せたり、音楽を奏でたりするのもよいアイデアである。

失語症の人は、言葉を回復するために絵本が必要な場合がある。彼らには事物をストレートに表現し、その事物に関する言葉と組み合わせた絵や、シンプルな絵物語が適している。同じことは、新しい国の言語を学び始めた少数民族の人にもあてはまる。

成人向けの絵本をさらに増やす必要がある。本についてもっとも素晴らしいのは、それが私たちの中に作り出す絵である、と多くの人々が語っている。それは「私たちの」絵である。同様に、言葉のない本は、「私たち自身の」言語の発達に役立つだろう。

どのようにしたらコミックストリップをさらにアクセシブルにできるのか？

クヌート・ウェスタッド (Knut Westad) およびマリ・タンジェン (Mari Tangen)

コミックストリップ形式は、絵を使用し簡単な方法で話を伝える機会を多数提供し、また、テキストと絵を織り混ぜて、互いに補いあったり対比させたりすることができる。しかしコミックストリップは、何もしないでいても読みやすいわけではない。読みやすくするには、テキスト付きの図書と同様に、改変が必要なのである。

コミックストリップを読みやすく改変するときには、絵と内容、そしてどこにテキストを配置するかを考える必要がある。すべての要素は、それぞれシンプルにわかりやすくできる。さらに、内容、絵、およびテキストは、1つのコミックストリップ（2個以上の連続したコマ）の中で調和がとれていなければならない。入念に考えられたレイアウトは、話の流れをつかみやすくする。優れたレイアウトと、もし可能であれば、エキサイティングなレイアウトは、楽しい読み物を生み出し、読者を次のストリップへ、次のページへと「引き込んでいく」だろう。

内容

シンプルな内容が必要な人向けのコミックストリップでは、一般の図書と同じ要素を検討する必要がある。時間の流れを守らなかったり、プロットや人物、場面展開が多すぎたりすると、話が理解しにくくなる場合がある。また、あまりに多くの予備知識を必要とする場合も難しい。直線的な1つの話が、発生順に語られるととっても理解しやすい。

絵

コミックストリップを読みやすくするためには、まず絵を明快かつ具体的に、そして理解しやすくしなければならない。中心人物と背景の描写は容易に見分けがつくようにし、例えば色の選択やテクニックの使用に関して、一貫していなければならない。人物、事物、そして背景は、読者を混乱させることのないように、その特徴を常に備えていなければならない。

コミックストリップや映画で通常使われる技は、登場人物や事物に目立つ特徴を与えることである。ヒロインにえくぼがあるとか、悪者にいぼがあるとか、車にスピード線を付けるとか…。これらの効果を慎重に使用することで、絵がわかりやすくなるだろう。

すべての動きは左から右へ、本の中での言葉の方向と同じに描く。左に向かう動きは、登場人物が体を後ろ向きにしたり、戻ってきたりするときだけに使う。

コミックストリップ作家の伝統的な表現技法では、さまざまな表現様式の対比を利用し、絵とテキストで同じ内容を表現しないようにする。しかし、読みやすいコミックストリップを望むなら、テキストと絵の間にある程度の一致が必要である（例1）。コミックストリップの作者が、表現媒体として非常にあいまいな様式にこだわるなら、それは読者にとって大変いらだたしいことだろう（例2）。

特に深刻な読みの問題を抱えている人にとっては、まったくテキストのないコミックストリップが解決策となる可能性がある。その場合、それは一連の絵なので、コミックストリ

ップと呼ぶ条件は満たされていないといえるかもしれない。しかしここでは、これもまたコミックストリップと呼ぶことにしている。フィリップ・デュパスキエ (Philippe Dupasquier) の、アクション満載の『大脱走 (The Great escape)』 (カッペレン 1988年) と、レイモンド・ブリッグズ (Raymond Briggs) の詩的な『スノーマン (The Snowman)』 (ギルデンダール 1978年) は、どちらも「コミックストリップ言葉」で語られる物語で、テキストはないが、コミックストリップの効果を利用している。

レイアウト

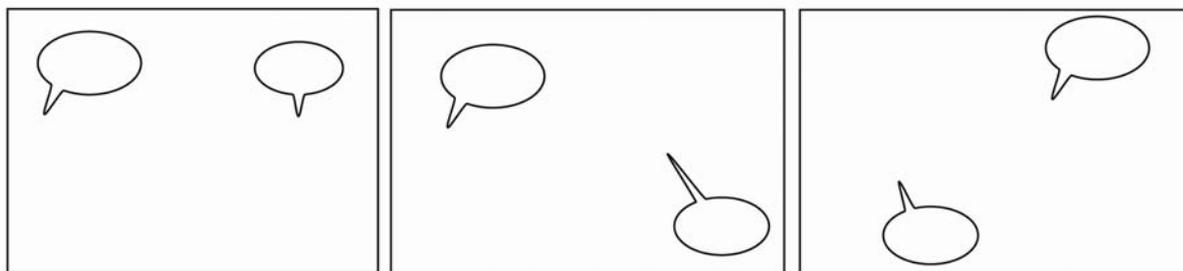
コミックストリップの改変には優れたレイアウトが必要である。読みやすくするためには、1ページに載せる絵を少なくしなければならない。同じサイズの絵を使用し、各ページに載せるコミックストリップは2つだけにするとうまくいく。「吹き出し」では、従来ブロック体の文字が使用されてきた。適切な書体を選び、一般のテキストのように、小文字と大文字を使用した方がよい。

テキスト

読むのが得意な読者でも、不適切に配置されたテキストはうまく読むことができない。どの吹き出しが最初なのか、読者がわからなければ、語り手が読む流れを意図せずして止めてしまったことになり、読者はその絵やページ上で、間違っただ地図を持ってクロスカントリーレースに参加しているといえる。

細かな描写が多く、視点の選択が複雑で、支離滅裂な展開のために、内容が理解しがたいページでは、吹き出しやテキストボックスをきちんと配置することで、混沌から抜け出せる場合がある (例5)。

読みやすくするためには、吹き出しやテキストボックスをどこに配置するかが非常に重要である。作者は常に、テキストをはっきりと目立たせ、またできるだけわかりやすく配置する最適の方法を考えなければならない。下の1つ目と2つ目のコマでは、読む順番に疑問の余地がないように吹き出しが配置されている。しかし3つ目のコマには問題がある。自分で試してみるとよい。読む順番を確認するために、念のためダブルチェックをする必要があるだろうか？



誰が最初に話しているのか、疑問に感じることがないようにしなければならない。最初のセリフを言う人は、通常絵の左側に立っており、セリフは、自然に最初に読むことになる吹き出しに書かれる。

絵の上方にまっすぐ横に並んだ吹き出しや、左上の角から右下の角へと斜めに並んだ吹き出しは、読む順番について誤解を招くことはほとんどない。人物が読者の方へ移動してきたり、読者から（絵の中へと）遠ざかっていったりするとき、重なってしまっている場合は、吹き出しがどの人物のものなのか、「吹き出しの矢印」で明確に示すことが重要である。

古いコミックストリップに多く見られるが、それぞれの絵の下に、テキストをひとまとめにして表示することがある。テキストの最初の部分は、絵の内容の説明だけだが、その後少し踏み込んで、次の絵への橋渡しのような内容を記したり、絵の描写をモノローグやダイアログで補ったりする。コミックストリップのこのような様式は、テキストが理路整然とした文学作品として読まれる場合があるので、むしろイラストつきの物語に近い。絵の中の吹き出しやテキストボックスにテキストが書かれていないということは、読む際にテキストと絵の間を素早く移動しなければならないので、テキストを読むことが大変な負担となる可能性がある。一方、シンプルなテキストがついた「すっきりした絵」は、大量のテキストを読みたくない読者にとって、読む動機付けとして役立つであろう（例3）。

『王子ヴァリアント (Prince Valiant)』は、絵の下にテキストがついているコミックストリップの例である。

擬音語・擬態語とアイコン

テキストとレイアウトの中間として、音の描写がある。

「ブルーン (WROOOM)」、「バーン (BANG)」、「バシッ (SMASH)」などの擬音語は、絵の中では通常色つき文字で描かれ、何かスピーディーなことや、危険なことが起こっていると教えてくれる。絵の中の人物の頭上の「グーグー (zzzzzzzzzzzzzz)」は、眠っていることを表している。車の後の空中に描かれた3本の線は、スピードが速いことを、また、2人の人物の間に描かれたたくさんのハートは、夢中で愛していることを表している。これらの要素が深い考えなしに使用された場合、絵が台無しになったり、読みとりにくくなったりする可能性がある。だが目的を持って使用されれば、テキストの代わりとなったり、テキストを詳しく説明したりし、読者を1つの絵から別の絵へと導いたり、さらに/あるいは、読者がそれ以上テキストを読む必要がないほど理解しやすくする、ユーモラスな言外の意味を生み出したりする。

いくつかの「コミックストリップのルール」

一物語、目、そして動きの方向性

読む方向は通常、左から右である。通常の「ストリップ分割」（2つから4つのストリップ）されたページでは、読者はページ下部に向かってZ字型に目を移動させながら読む。水平の分割線が破られることなく、また読む方向に疑問の余地がない限り、Z字型移動は繰り返される。そしてZ字型移動は、次の絵の場所がわからなくなる限り、続けられる。

細かな描写が多すぎたり、視点が複雑であったり、支離滅裂な話であったりするために、展開にまとまりがないコミックストリップでは、吹き出しやテキストボックスをきちんと配置することによって、読者の混乱を正す効果があげられる（例4）。

コミックストリップ中のテキストと絵一例による説明

例1

この絵はアイダ（Ida）がバスを降りるところを描いている。
テキストボックスにはこう書かれている。「アイダはバスを降りたい。」
アイダの頭から出ている、考えを表す吹き出しには、次のようなテキストが書かれている。「私はバスを降りている。」



この例には、実は同じ内容の3つのメッセージが含まれている。テキストなしの絵であっても、まったく同じ内容が伝えられるであろう。もっとも読むことが苦手な読者には、このような改変が必要だろう。

例2

さらに一般的な語りのテクニックは、考えを表す吹き出しに書かれている内容とは違うことを絵で示すもので、例えば、より大きな場面の描写があげられる。それは、往来を走る

バスや、上空から撮影された町の一部の写真で、アイダがバスに乗る前の場面であろう。あるいは、この絵にあるように、マクロな視点を使用してもよい。この絵はバスの車中で、考えを表す吹き出しは、ある人がバスを降りると決めたことを示している。私たちには手と切符しか見えないので、この人物が誰かを読者に伝える要素を含めることが重要である。それは絵の端にあるショルダーバッグや、ちらりと見えるだけのチェックのジャケットなど、物語のこれより前の部分で読者に提示された物でもよい。しかし、これがバスの切符を持っているアイダの手をクローズアップした絵であると理解するには、読者はかなり苦労しなければならない。

(アイダは考えている。「私はバスを降りる。」)



これら2つの例の特殊効果の使用に注目するために、もっと大きなつながりの中からこれらを取り出し、1つのコマとして提示した。このコミックストリップを読みやすくするには、この例の前後のアイダをすべて見せなければならない。

例3

ここでは、テキストが吹き出しではなく、コミックストリップの下に表示されている。

現代のアクションストリップでは、テンションを高めるために、クローズアップ、事物や人物、顔の断片的な描写のような映画的な効果を多用する。この例にある、絵だけの描写は理解しにくい。この人物は、恐れているのか？いらついているのか？怒っているのか？

テキストは絵を説明しており、読者が絵を理解しているか否かに関わらず、読むことができる。



©2006 Westad Papirfilm

—誰かそこにいるの？ 彼女はたずねた。

例 4

縦長の長方形のコマに描かれたいくつかのクローズアップが、ドラマチックな効果を増すために使用されている。テキストの吹き出しはストリップの上方に水平に配置されており、読む方向については何の疑問もない。



©2006 Barnebladet Blink/Westad Papirfilm

—あなたはぼくを信じないのですか？—多分わたちは…見なければいけない…
そこにいるのは誰だ？

例 5

次のページの絵は複雑である。場面は、読者に向かってくる動きとして描かれ（最初の絵）、その後読者から離れていく場面となっている（二番目の絵、山奥に向かっている）。吹き出しは、誰が最初と最後に話しているか、疑問の余地がないように配置されている。z型のパターンは壊されているが、最初にどの吹き出しを読むべきかは、はっきりしている。



- これが正しい洞窟だ。私にはわかる。
- 奥に行くほど寒くなるよ。
- 寒くなるし、じめじめしてくるのさ。足元に気をつけろ。滑りやすいぞ。

参考文献

レイモンド・ブリッグズ (Briggs, Raymond) 『スノーマン (The snowman)』
ロンドン ハミッシュ・ハミルトン (Hamish Hamilton) 1978年

フィリップ・デュパスキエ (Dupasquier, Philippe) 『大脱走 (The great escape)』
アメリカ合衆国 ケンブリッジ キャンドルウィック・プレス (Candlewick Pr) 1996年
ISBN 9781564028501

ウィル・アイズナー (Eisner, Will) 『コミックと連続的芸術 世界でもっともポピュラ
ーな芸術様式の原則と実践 第22版 (Comics & Sequential Art. Principles &
Practice of the World's Most Popular Art Form. 22nd edition)』
フロリダ タマリック (Tamaric) プアハウス・プレス (Poorhouse Press)
ISBN 0 9614728 1 2

布の本

子供たちは皆、布で作られた本が大好きであり、またそれらを「必要としている」子供たちもいる。布の本を必要としているのは、何らかの理由で、将来読み方を学ぶ条件となるスキルの開発に特別な支援が必要な子供たちである。

読むことには、目と脳、そして目と手の高度な協応が必要である。文字と絵が見えるように、ある一定の角度で本を持ち、ページをめくればならない。布で作られた本は、不随意運動を伴う子供や、目が見えない子供、運動機能が低い子供などには扱いやすい。一般の図書は破れやすく、よだれでだめになってしまい、またページをめくるのが難しい。本は多くの子供たちの友達である。布の本は、優しい友達なのだ。

布の本には多数の効果がある。子供たちの好奇心をかき立てるために、布の本を製作するのは良い考えである。例えば、ポケットのふたを一生懸命開いたとき、子供たちはわくわくするようなおもちゃを見つけるのだ。子供たちは身近なものに関する話が好きだが、笑わせてくれるような驚きがあったほうがよい。また、物語にあった素材を選ぶとよいだろう。フェルトを使って、物語に織り込めるような文字や数字を作ることにもできる。

日本人は布の本の製作に関しては特に優れている。ターゲットグループはおもに視覚障害児である。布の本の多くは縫ったものであるが、マジックテープのような新製品のおかげで、今では針仕事をすることなく布の本を作ることができる。インドやスロヴェニアなどの他の国々でも、近年同じように製作している。

アメリカのアン・ペロウスキー (Anne Pellowski) は、多くの国でワークショップを実施しているが、そこでは参加者自身が本を作るのが特徴である。彼女はこれらのミーティングに参加した人々の創造性を見て驚いていた。

店で販売される布の本もあるが、ほとんどは少人数の子供たちを元気づけるために作られている。出版社は一般にこのタイプの図書の製作に前向きではない。それはお金がかかるプロジェクトだと考えているからである。しかし本当に良い本であれば、多くの子供たちの興味をとらえるであろう。そうすれば利益が得られる可能性も高い。

参考文献

アン・ペロウスキー (Pellowski, Anne) 『子供向けの布の本の作り方—個人用の本を作るためのガイド (How to make cloth books for children - a guide to make personalized books)』

ペンシルヴァニア チルトン・ブック・カンパニー、ラドナー (Chilton book company Radnor) 1992 年
ISBN 0 8019 8398 3

指で読み、体験する本 — さわる本とさわる絵

ニーナ・アスクヴィグ (Nina Askvig)

私が聞くことを—私は忘れてしまう

私が見るものを—私は覚えている

私がすることを—私は理解している

全盲の人や重度の弱視の人のために絵をアクセシブルにしようと、研究者は手と指で読み理解できる、さわる絵の開発と製作を試みてきた。このようなタイプの絵は、教育を目的とした図、地図、表などがほとんどである。しかし1970年代から、作家や芸術家、そして出版社が、子供と若者向けにさわって読むフィクションの本の製作も開始した。

この種の図書がほとんど製作されていない理由はいくつかある。さわる本の製作には、高度な専門的かつ技術的熟練に加え、多額の財源も必要である。異常に高い製作費にもかかわらず、このような図書の販売価格は通常の図書とほぼ同じでなければならない。さらにこのような図書は、一般の絵本と同じ芸術性と文学性を備えていなければならないのだ。

さわる絵は通常、浮き彫り状の隆起した絵で、「スウェルペーパー」あるいはプラスチックに描かれる。また、布の絵やコラージュもあり、さまざまなタイプの素材（布、サンドペーパー、金属、プラスチック、真珠、貝など）がマジックテープや糊でページに貼り付けられている。ボール紙を型抜きした絵もある。さわる絵を理解しやすくし、またある程度の耐久性を確保するためには、高性能の印刷技術が必要である。製作者は、同じ絵の中でも、多様な素材と質感とを使用することが重要である。これは触覚への刺激を増やし、全盲および重度弱視の読者が絵を解釈するのに役立つ。さらに、明るく強い対比の色彩が、視力がいくらか残っている人を喜ばせ、また支援するということも覚えておかなければならない。

絵の主題をどのように構成し、配置するか

野原の、短い、乾いた草のようだ

（日本人の少年による馬の描写）

製作技術と財政面から考えれば、素材の選択が何よりもまず課題であるといえる。作家と芸術家にとって最大の課題は、絵の中で主題をどのように構成し、配置するかである。目の見えない読者が、目が見える人の助けを借りずにすぐに理解できる、さわって見るプレゼンテーションを、どのようにしたら製作できるであろうか？この問いは、生まれたときから目が見えない人、あるいは子供の頃に失明した人に特に関係がある。このような人には、知的概念の基盤としての視覚的経験がない。これは、言語発達途上にあるが、絵をさわって読んだ経験がほとんどない幼い子供たちの場合、特に重要である。

視覚的経験に基づくさわる絵は、通常、追加情報がなければ、目が見えない人には理解しがたい。これにはいくつかの理由がある。

生まれつき目が見えない子供は、聞くこととさわることを通じて言語を身に付けていく。目が見えない子供の経験と印象では、当然のことながら視覚ではなく触覚が、言葉と概念に意味を与える中心的な要素である。このため、視覚的な印象を基にした絵は複雑すぎる場合がある。目が見えない人は、絵を体験し「読む」ことを、細かい部分から始める。

「少しずつ」読むとき、主題の全体像を認識するのは難しい。大きな事物の全体像の把握は特に複雑である。盲目の少年は、頭と体と4本の足を持つ馬全体を「ズームイン」することはできないが、馬をなで、「短い、乾いた草」という印象を受けるのである。このため馬の触覚的表現は、このような断片的な触覚認知に基づいたものとならざるを得ない。そこで、たてがみ、肌、サドル、ハーネスなど、ほとんどの盲目の子供たちが体験する可能性がある馬の「特徴の詳細」を示すのもよいであろう。視覚的形態を提示する代わりに、素材や表面の様子を強調するのもよい。これは数枚のさわる絵を使って行える。少量の毛は、その動物の触覚的表現となるであろう。

私たちは、目が見えない子供が描いた絵から、形ではなく機能が重要であることを確信した。(福来 1974年) スクールバスは「4つの車輪のついた箱」としては描写されず、ドアの取っ手、踏み台、そして床が描かれる。さわる本の『むかしむかし (Det var en gang/Once upon a time)』(ディーゼン 1990年)では、作者はこの結果を受けて、お金を入れる細長い隙間で、風船ガムの自動販売機全体を表現している。

指先で主題全体を「読む」というニーズを満たすために、いくつかのさわる本では、登場人物を型抜きされた小さな幾何学形にしたり、その他さまざまな形や大きさ、質感の抽象的な形にしたりしている。このようにすれば視覚的体験は一切必要なく、すべての子供に共通する想像力だけが求められるからである。

視覚に基づく触覚的表現とその改変

多くのことが、全盲および重度の弱視の人のためのさわる絵は、従来の視覚に基づく「写実的な」絵以外の形にしなければならないと示唆しているとはいえ、シンプルで写実的な表現がうまく機能する場合もある。これは非常に小さな事物の触覚的表現にいえることで、子供たちが現実生活で知っている小さな事物と、程度の差はあるが、同じ形、質感で表現する。硬貨、真珠、貝、ペーパークリップなどがこれに当たる。

しかし、有名な絵本の触覚的表現についてはどうだろうか？そこでは主題を何かしらのレリーフへと変換しつつも、視覚に基づくオリジナルの描写を維持しなければならない。このような触覚的表現は、見える世界のイメージを基にしており、それゆえそのテクニクは、絵と芸術を目が見えない人の立場に立ったものにしたいという希望と一致しなくなる。このような本を理解するには、通常、目が見える人による支援や、印刷された「手がかり」が必要となる。

しかし、このような「翻訳」には使命がある。たとえ主題が理解するには複雑であったとしても、そのような図書は好奇心を目覚めさせ、子供たちに絵の中にある手がかりを探す「狩り」に行くよう促してくれる。また、子供たちはさらに多くの視覚的表現を認識できるようになり、学校や社会で行動しやすくする視覚的な行動規範を学ぶ機会が得られる。

このような改変はまた、他の読者にとっても面白く、刺激的な場合がある。一般の絵を「読む」ことができる弱視の子供たちと、身体障害児、そして知的障害児は皆、視覚と触覚に訴える、色鮮やかな様式化された絵の布の本とさわる本に、大きな喜びを見出すであろう。実際これらの本は、すべての子供たちにとって面白く、目が見える子供たちと視覚障害児の間のコミュニケーションを促進する。

言語が発達しており、読書の経験がある、目が見えない成人の読者は、キャプションを読むことによって情報が得られるので、視覚に基づく絵の理解に優れている。目が見えない人と見える人の「出会いの場」は、ノルウェー人アーティストのチェルスティ・グロスタッド (Kjersti Grøstad) が、エドヴァルド・ムンク (Edvard Munch) の『叫び (Skrik/The scream)』と『キス (Kyss/Kiss)』を、音声と点字および通常の印刷による絵の解説を付けて改作したレリーフであった。アンケート調査の回答から、全盲または弱視の人は、これらの解説のおかげで、絵を一層楽しみ、理解できたことが明らかになった。結論として、絵の優れた解説は、目の見えない人にその絵がどのように見えるかを理解させ、その内的イメージを伝えるといえる。(グロスタッド 1996年)

テキスト

さわる絵が載っている本のテキストは、通常点字で表示されるが、一般の印刷字で示されることも多く、目が見えない人と見える人の両方が読めるようになっている。

目が見えない人と見える人によって同時にテキストが読まれる場合、「手で読むこと」が「目で読むこと」を妨げないよう、通常のテキストの下に点字を配置しなければならない。また、目が見えない読者がテキストと絵を区別する上で何の問題も生じないように、点字のテキストがさわる絵と重ならないようにし、絵とはっきり離して配置することが重要である。さらに、点字を読みやすくし、時間がたっても完全な状態を維持できるようにするために、印刷の質を高くする必要がある。

もっとも幼い子供たち向けの図書では特に、テキスト中の単語と概念の選択を慎重に行わなければならない。『これ、なあに？ (What is that)』(ヴァージニア・アレン・イエンセン 1977年)という本の原稿では、作者は2人の登場人物を「のっぽ (tall)」と「ふとっちょ (fat)」と表現していた。彼女はすぐに規制団体から、彼らを「長いザラザラさん (Long Ru)」と「平べったいザラザラさん (Broad Ru)」と呼ぶようにいわれた。レリーフの絵は2次元として読むのが自然なので、登場人物を、「のっぽ (tall)」や「ふとっちょ (fat)」という3次元的な概念では表現できなかったのだ。さわる絵も含め、絵は3次元であると錯覚してしまうことが非常に多い。これは目が見える人ならすぐに理解できるが、目が見えない人にとっては複雑な内容である。目が見えない人は、2次元と3次元の違いがどのように見えるかを学ぶ必要があるからだ。

アレン・イエンセンは別の問題も抱えていた。別のページで、彼女は「バラバラくん (Lille Pjusk/Little Tousle)」を「ツルツルくん (Lille Glatt/Little Smooth)」の後ろに隠れさせた。目が見えない子供たちの多くは、この絵がわかりにくいと感じた。彼らはさわって読むことでは遠近感を認識できず、「後ろ」という概念が理解できなかった

からである。子供たちの中には、「バラバラくん」が小さくなってしまったという者もいた。また、「ツルツルくん」が「バラバラくん」の上に寝そべったのだという者もいた。

なぜ、さわる絵とさわる本が必要なのか？

さわる絵やさわる本は、技術的にも経済的にも多大なリソースが必要であり、その上読者に対する要求も多いが、これらは図書製作において当然受け入れられなければならない。さわる絵本は触覚を鋭くし、目が見えない子供に点字を読む準備をさせる。

さまざまなタイプのさわる絵を掲載した図書は、目が見える子供たちの間でも人気になってきた。これらの本はまた、目が見える子供と大人とが、目が見えない人や重度の弱視の人が周りの世界をどのようにとらえているかを理解するための「入場券」となった。

絵本は一般に言語、情報、読書の体験と喜びの源であり、明確な社会機能を備えている。このため、自分1人で、もしくは他者とかかわりあいながら、本の中の絵と芸術を体験する機会を、重度の視覚障害者に提供することは当然であり、かつ義務でもある。

参考文献

ヴァージニア・アレン・イエンセン (Allen Jensen, Virginia) 『発見の可能性 読みやすい図書セミナー—原稿、基準と成果 (The prospect of discovery. Seminar Easy to Read - papers, criteria and results)』 (p.49-63)

ハーグ オランダ公共図書館センター (Dutch Centre for Public libraries) 1989年

福来四郎 (Fukurai, S.) 『見たことないものつくられへん (How can I make what I cannot see?)』

ニューヨーク ヴァン・ノストランド (Van Nostrand) 1974年

チェルスティ・グロスタッド (Grøstad, Kjersti) 『「触覚で読む人」のための芸術—どのようにしたら絵画芸術を視覚障害者のために改変できるか? (Kunst for kjennere - hvordan kan man tilrettelegge billedkunst for synshemmede?/Art for “feelers” - how can you adapt pictorial art for the visually impaired?)』

オスロ Høgskolen i Oslo, avd. for estetiske fag 1996年

さわる絵本

ヴァージニア・アレン・イエンセン、ドーカス・ウッドベリー・ハラール (Allen Jensen, Virginia and Dorcas Woodbury Haller) 『これ、なあに? (What's that?)』

ニューヨーク コリンズ (Collins) 1978年

ISBN 0529055007

アネッテ・ディーゼン (Diesen, Anette) 『むかしむかし (Det var en gang/Once upon a time)』

オスロ ソラム (Solum) 1990年

ISBN 8256006749

さわる本—出版社の課題

視覚障害者向けのさわる本の製作は、出版社にとって大きな課題である。この分野における草分けであるヴァージニア・アレン・イエンセン（Virginia Allen Jensen）は、隆起印刷という仕事を引き受けられる印刷会社をどのようにして探したかを語ってくれた。彼女はクリスチャン・ソーム（Christian Sorm）という、シルクスクリーンの専門家を見つけた。彼は隆起印刷専用の機械を製作し、ついに正確な全面隆起印刷の大量生産に成功した。

これは30年近く前のことだが、今なお、新たなさわる本の製作は、毎回出版社にとって難しい課題である。ソラム・フォーラグ社（Solum Forlag）（オスロ）は、アネッテ・ディーゼン（Anette Diesen）のさわる本を15年間出版してきた。同社は、人形、貝、真珠、オルゴール、硬貨など、触覚を刺激する実に多種多様な要素を試してきた。これが発行部数1,000の図書の編集に関わる問題であることを考えれば、一出版社としては、すばらしい取り組みである！製作には「接着剤」が必要で、しかもそれは無毒性でなければならない。本の中身を保護できる十分に頑丈な製本方法も模索しなければならない。しかも本が平らにおけるようにしなければならない。これにはスパイラルリングが使用されることが多いが、図書館司書には扱いにくい。

ディーゼンの先輩であるクリスティン・ビーレンバーグ・ソホール（Kristin Bielenberg Søhoel）は次のように記している（論文『さわる本の出版（Publishing tactile books）』スペシャルペダゴジック（Spesialpedagogikk）10/93より）。「視覚障害者のための挿絵入りの本の出版では、製作過程全般にわたり、予期せぬ複雑な難題が生じる。ソラム・フォーラグ社がこのような本を出版するという困難な仕事を引き受けたとき、文学は「すべての人」のものだという確固たる信念に基づく目的を持っていた。しかし問題がある。この種の編集は、通常の出版事業の限界をすべて超えてしまっているのだ。」
（筆者訳）

さわる本の出版費用を得るために、出版社は全面的に経済支援に依存することになる。

図書の形態

アクセシビリティが問題となる時、図書の形態は極めて重要である。読みやすく改変された書物の出版社にとって、これは大きな課題となる。それは、最高の読みやすさを達成し、できるだけ視覚的にアクセシブルにすることだ。

ここに記されていることの多くは、「あらゆる」タイプの図書に当てはまる。文字の大きさを8ポイントにして図書を印刷するには、非常にもっともな理由が必要である。出版社が、文字を大きくすることと行間を広げること、そしてテキストの背景に濃い色の紙面を使用するのをやめることを常に守れば、かなり多くの図書がよりアクセシブルになるであろう。

出版社にとって、紙の価格が高いときにページ数を減らすことは魅力的だが、小さな印字は、読むことに問題のある読者に限らず、多くの読者に恐怖心を抱かせ、読者は逃げて行ってしまう。品質を高めることによってこそ、すべての読者をつかめる可能性が高まるのだ。

書体—スク립ト体—活字体

一般に、斜字体は読みにくい。テキスト中で何かを強調したいときには、太字を使用するとよい。しかしそれ以外は、どの書体をもっとも読みやすいかについて、確かなことを語るのには容易ではない。いくつかの調査は、もっとも読みやすいのは、もっとも頻繁に目にしている書体だという単純な結果を示している。ノルウェーの図書では、「アンチック体」を目にすることが非常に多い。「アンチック体」は多くのセリフがついた書体で、これにより読む速度が上がる。また優れたアンチック体は、ベースラインに沿って読む方向を指し示すのでよい、というのも理にかなっている。弱視の人の場合、通常ゴシック体を好む。これは、文字にセリフがなく、全方向が同じ太さの書体の総称である。文字の線が同じ太さであることから、視力の弱い人でも読みやすくなっていると思われる。また、ゴシック体では単語がお互いにはっきりと離れているので、読むことに問題のある人にも適した書体であると考えられる。ゴシック体は遠くからでも見やすいので、ポスターに使われることが多い。本冊子のテキストは12ポイントのアリアルで書かれている。

イギリスでは、初心者向けの図書に使用されるサッスーン・プライマリーという書体が開発された。この書体は手書きの文字に少し似ており、子供たちが好んで読む書体を考慮して開発された。子供向けの絵本や初心者用図書の出版社には興味深いはずである。

線の太さが均一でない書体や、特に細長い書体、つまり非常に「やせている」書体は、読みにくい。「ベースライン」から上下に伸びる線が短い、平べったい書体にすると、テキストが単調で読みにくくなる。きっちりとした幾何学的な形の書体にも、同じことがいえる。

文字の大きさと行の長さ

テキストが読みやすいかどうかを決定するのは書体だけではない。文字の大きさも同様に重要である。たいていの人は、フォントサイズを 11 か 12 にすると読みやすくなる。数カ国の盲人協会は、一般のテキストでは 12 ポイントを最低基準とすべきで、そうすれば、中度弱視でもかなり多くの人を読めるようになると主張している。弱視の人や知的障害者のために読みやすく改変された図書では、通常 14 ポイントが使用されている。しかし、書体によっては、14 ポイントが 12 ポイントに見える場合があることに注意しなければならない。文字の大きさは、背の高い文字 (t, f, h) と背の低い文字 (p, g, j) によって決まる。文字の高低差が比較的大きい書体では、a、s および e などの「x ハイット」は小さくなる。

文字が大きすぎると、行全体を見るのが難しくなる。文字が大きすぎることによって、行が長くなることがないようにしなければならない。1 行はおよそ 11cm の長さにするのが望ましい。行が長いと、次の行の最初へと戻る距離が長すぎるので、読者は改行するのが難しくなる。

しかし、長すぎても短すぎてもすべてがだめになる、ともいえるだろう。1 行に 30 文字しかない場合、何事も多くを伝えるのは難しく、頻繁に改行しなければならないために多大なエネルギーを費やすことになる。90 文字では 1 行が長くなり、全体を見るのが難しい。理想は 55 文字から 60 文字である。

また、3 行にまとめられたテキストでは、中央の行が一番長いとき、もっともバランスがよいことも、心得ておくべきだろう。

節と文分割

テキストは、文を分割したり多数の節を設けたりして、アクセシブルにできることがよくある。文を、次の段や次のページへと続くように分けてしまったり、最悪なことには、ページをめくらなければならないように分けてしまったりするのはよくない。また、例えば一方のページに 1 つしか文がないような節の分けかたをしてはならない。読むことに問題のある人は、各ページの一番下で息継ぎの場が必要である。そのため、一定のスペースを空けてテキストを配置するよう、大いに苦心することが大切である。

また、右マージンを揃えて文字を配置するのも避けなければならない。これによって単語と単語の間のスペースが不均等になり、テキストを読み進めるのがさらに難しくなるからだ。マージンは揃えない方がよい。これは、読んでいる途中で止まってしまった場所に戻らなければならない読者にとって、絶対である。通常、右マージンを揃えないようにするのが最適だが、各節の最初の部分をインデントすることもまた有効である。

いくつかの知的障害者向けのパンフレットの中で、テキストをページ中央に配置することを試みた。これは成功したようである。

1行の長さが10から12のときには、文の途中で行を分けなければならないことがよくある。だが文をどこで分けるかが問題となる。多くの人は、フレーズがあるのなら、「読者を先へと引っ張っていく」ために、フレーズの途中で分けるべきだと考えている。しかし、「シンプルなテキスト」の中で記したように、一般に認知障害のある人の場合は、フレーズが1行に書かれている方が、意味を理解しやすいと思われる。少数民族については、決まり文句を分けてしまうと、文章の一貫性を把握するのが難しくなる場合がある。

節を利用すると読みやすくなるが、これは休む機会が与えられるからである。しかし、読むことが苦手な若者の場合は、これを多用することに否定的な反応が見られた。詩を連想する者もいれば、若者向けの他の図書とあまりに違うので、読んでいるところを見られたくないと考える者もいた。図書の形態が「いける」場合は、改変を受け入れやすかった。実際に試してみて、これらの意見のバランスを取っていかなければならない。

スペース

ページには、「エア (air)」とも呼ばれるスペースを多くとることが重要である。行間スペースで、テキストが読みやすいかが決まる場合がある。奥付のページでタイポグラフィーについて記している本はほとんどないが、特に明記している場合は、文字サイズと行間スペース (kegel) の両方に言及している。14/18 エジプシャンセリフ体が、いくつかの認知障害者グループに試され、よい結果が得られた。14/18は、文字サイズが14ポイントで、行間が18ポイントということの意味する(1ポイント=0.353mm)。しかし行間を広げることで、自動的にテキストが読みやすくなるわけではなく、例えば8.5/15はあまりよくない。

行間を広げても、小さな文字は大きくはならない。原則として、行間は文字の大きさよりも20-30%大きくするとよいといわれている。14/18は、フィンランドの図書デザイナー、マーカス・イトコネン (Markus Itkonen) をはじめ、さまざまな人々に推奨されている。

また、語間スペースも考慮しなければならない。これは広げすぎると読む速さが遅くなることがあるので、広げすぎないようにする。それぞれの単語がひとまとまりとして認識されるように、文字はお互いにかなり接近させて配置しなければならない。このような「語間詰め」は、文字サイズと書体に応じて個別に行われなければならない。

段組み

図書が横向きA4サイズである場合を除き、段は1つだけにしたほうがよい。段と段の間の距離はかなり大きくとり、インデントが使用できようにする。2段組みにすると、ハイフンが多くなりすぎて、読者を混乱させてしまう。ハイフンを多用した場合、よいテキストモデルにはならない。3段組みでは複雑すぎる。

「テキストボックス」およびその他の効果的手段

さまざまな大きさの見出し、余白部分のテキスト、文字の大きさや背景の色の変更、追加記事を掲載した「ボックス」、注釈を示す星印…これらの効果的手段は、教科書やノンフィクションのテキストで頻繁に使用される。研究によれば、これらのほとんどは、読むのが難しい人にはまったく無駄であるとわかっている。これらは役に立つどころか、混乱を招いてしまうのである。図が専用のページに掲載されていないと、図の中のテキストを本文の一部として読んでしまう。単語の説明は、本文に盛り込まなければならない。追加記事を掲載した色つきのボックスは、テキストと背景とのコントラストが弱すぎるので、一層読みにくいことが多い。このような効果的手段は、読むのが難しい人のための図書に導入する前に、しっかりと検証しておかなければならない問題である。

背景と色彩

読むスピードを考えたとき、白地に黒の印刷が最適で、これに続くのが、白地に緑、白地に青、そして黄色い地に黒である。わずかに黄色い紙、またはわずかに灰色の紙もよいが、その場合黒で印刷するのが望ましい。

このような規則は、背景の色の選択にも当てはまる。これは図中のテキスト、余白部分のテキスト、章見出しなどに活用されることが多い。多くの本が、テキストの背景に色つきの紙を使っただけで、アクセシブルでなくなっている。この種のグラフィック効果により、本は一層魅力的になるかもしれないが、非常に多くの場合、このような背景の色は、美しさも読みやすさも向上させないことがわかっている。

挿絵

挿絵に関して最初に行うべきことは、それが必要か否かの決定である。成人向けの小説には通常挿絵はない。一方、私たちは「図解社会」に暮らしている。実際、成人向けの小説に挿絵を入れてはいけない理由は何もない。それはディスレクシアの人と少数民族の人の読書を容易にするであろう。

挿絵を単なる飾りとして入れるべきではない。挿絵は目と脳を休めるものとして役立ち、読者をサポートするものとなるであろう。挿絵はテキストを正確に描写し、その理解を深め、本の芸術性を高める。これまでの経験から、小説中に挿絵があれば、読むのが難しくても独力で本を読もうと決心する人が増えることがわかっている。

挿絵をどこに入れるかは非常に重要である。挿絵が説明の役割を果たしているなら、該当するテキストと同じページか、隣のページに載せなければならない。芸術性を高め、読者を惹き付けるための挿絵は、馬にやるニンジンのように読者へのご褒美となるので、章の最後に載せるとよいだろう。

紙

本の紙面を選ぶときには、表面の質感、厚さ、透光性、色、重さ、価格など、考慮しなければならないことがたくさんある。紙質は、視覚障害のある読者にもっとも重要な問題であるが、彼らにとってよい紙は、他の読者にとってもよいものとなる。

弱視の読者の多くは、光に敏感な目を持っている。光沢のある紙面の本は、このような人々には適していない。また、不透明性を高くする必要があるが、これは、どの読者にとっても、ページの裏側のテキストが透けて見えるのはよくないからである。

紙面に少しだけ光沢があった方が、挿絵がやや目立つ。しかし、光沢のない紙面でも品質は十分である。

不随意運動が起こってしまう人や、ページをめくることなどに関する運動障害のある人のために図書を製作する際には、強い紙質を選び、しっかりとした製本をしなければならない。

画面上で読む図書

タイポグラフィと背景の色について書かれていることのほとんどは、画面上で読む図書にも当てはまる。また、多くの「スクリーンリーダー」では、画面上のページが、いわゆる WAI 標準規格に技術的に準拠していれば、書体、文字サイズ、背景の色を、各自のニーズに合わせて変えることができる。WAI 標準規格については、<http://www.w3.org/WAI/> で読むことができる。

表示

本には表示を付けるべきか否か？これは読みやすく改変された書物や教科書について、常に問題とされてきた。その本が特定のターゲットグループを対象に製作されていることを知らせるべきだろうか？読者の対象年齢を記しておくべきだろうか？編集にあたって、誰がスポンサーとなったのかを伝えるべきだろうか？スポンサーは、通常奥付のページや裏ページに名前を載せたいと考える。年齢層についてのヒントを提供する必要がある場合もある。いずれにせよ、表示がある場合でも、最近では以前に比べてはるかに目立たなくなった。他のスポンサーと同様に、「すべての人のための図書」財団も、支援した図書にロゴを載せたいと考えている。ロゴは、その本が読みやすく改変されており、高い品質であることを保証するものである。

ターゲットグループの表示は、これ以上に厄介である。本の裏ページには通常、どのような人がこの特別な本に興味を持つかを伝える言葉がある。一方、私たちはできるだけ多くの読者にこの本を届けたいと考えている。本冊子と、www.boksok.no、そしてカタログの中では、あらゆる種類の機能障害や身体障害に言及する代わりに、「シンプルなテキスト」や「シンプルな内容」などのインクルーシブな表現を使うように努めてきた。私たち

は「私たちの」出版社にも、同じようにすることと、すべてのタイプの読みやすく改変された図書を「読みやすい図書」と呼ぶのではなく、その代わりに改変のタイプを説明してほしいということを伝えている。

複数のグループを対象とした図書の製作は可能か？

1970年代初めに、ノルウェーの知的障害者のための図書の製作を始めたとき、出版社は少数民族出身者を教える教師から頻りにアプローチされ、「これらの図書は、私たちの生徒にも非常に適したものとなるだろう。ただ…」と告げられた。「ただ」とは、どのテキストや絵本にも、ターゲットグループが誰かを表示しないでほしい、ということであった。当時このような図書に取り組んでいた私たちは、知的な遅れのある人が、最終的には本の中に自分自身を見出す経験ができるようになることが重要であると考えていた。

現在、社会はさらにインクルーシブになった。それは、さまざまなグループに適した本を書くのが容易になったという意味ではない。知的障害者と少数民族の場合、とてもシンプルなテキストを用いてノルウェー語の学習を始める必要がある。両方のグループが関心を示すトピックを扱ったノンフィクションの本がある。アルファベットを学んでいる間は、どちらのグループも、語彙を増やすために成人向けの絵本を必要とする場合がある。このような本が、どのターゲットグループを対象として製作されているかといえば、決してどちらともいえない。読みやすく改変された図書を製作する際には、特別な面が普通の面を隠してしまわないようにすることが重要である。

電子図書は、視覚障害者のためのピンディスプレイや合成音声、テキストの複雑性のさまざまなレベルの選択など、改変と多様化の可能性を数多く秘めている。このようなタイプの図書は、特に教科書とノンフィクションの場合、複数のターゲットグループに提供できる。

『ノルウェーの社会 (Samfunnet Norge/The Norwegian Society)』はその一例である。これはシンプルなテキストとより複雑なテキスト、そして難しい言葉の「用語集」から構成されている。「ワード」にコピーして、さらに読みやすく改変することもできれば、ピンディスプレイを使用することもでき、また合成音声も備わっている。そしてノルウェー語、新ノルウェー語および英語の3つの言語で利用できる。ターゲットグループは少数民族と知的障害者で、これまでのところ、どちらのグループにも有効である。

(http://skolenettet.no/moduler/templates/Module_Article.aspx?id=34107&epslanguage=No)

視覚障害児向けのさわる本のほとんどは、すべての子供たちに人気である。同じことが布の本にもいえる。青年と成人向けの読みやすく改変されたノンフィクション、伝記、園芸、旅行、電車に関する本の多くには、「一般の」読者がいる。そして当然、非常に多くの「一般の」図書はディスレクシアの人に適しているが、これは、単に「読みやすく書く」才能がある作家もいるからなのである！最後に、読むことに障害があるか否かを問わず、多くの読者に読まれているコミックストリップと絵本があることも忘れてはならない。

したがって、「複数のグループを対象とした図書の製作は可能か？」という質問に対する回答は次のようになる。さまざまなタイプの読者に適した本を書くことは可能である。しかし多くの作家は、執筆する際に一種類の読者しか想定しておらず、おそらくはそれが一番よい方法なのだろう。だがそうして執筆された本が、あらゆるタイプの読者にうまく届けられれば、さらに喜びが増すであろう！

あとがき

読みやすく改変された図書の製作は高価で、数少ない部数しか出版されないため、作家やイラストレーター、そして出版社に対する何らかの公的支援が必要である。本冊子から明らかのように、ここノルウェーには「すべての人のための図書」財団がある。

(www.lesersokerbok.no/)

「読みやすい図書ネットワーク (the Easy to read-network)」は、各国で読みやすい図書に取り組んでいる組織と人々の集まりである。同ネットワークのウェブサイトは <http://www.easy-to-read-network.org> である。

国際的には、IBBY (国際児童図書評議会) という重要な組織もある。これは、質の高い児童書のための活動に関心を持つ人々の国際的なネットワークを代表する非営利団体である。ノルウェーのIBBYは、あらゆる年齢層を対象とした、読みやすく改変された書物の特別なコレクションを所有しており、heidicbo@online.no から問い合わせできる。IBBYのホームページは<http://www.ibby.org>である。

参考文献リスト

ポリー・K・エドマン (Edman, Polly K.) 『さわるグラフィックス (Tactile graphics)』
ニューヨーク アメリカ盲人協会 (American Foundation for the Blind) 1992 年
CIP 92-12198

バーバラ・H・バスキン、カレン・H・ハリス (Baskin, Barbara H. and Karen H. Harris) 『ある風変わりなドラマーの手記－障害者を描いた青少年フィクション入門 (Notes from a Different Drummer - A guide to Juvenile Fiction Portraying the Handicapped)』
ニューヨーク R.R. バウカー・カンパニー (R. R. Bowker Comp.) 1972 年
ISBN 0-8352-0978-4

『読みやすい図書に関するガイドライン (Guidelines for Easy-to-read Materials)』
ブロール・トロンバック (Bror Tronbacke) 編著
オランダ ハーグ IFLA 出版 (IFLA publication) 1999 年
ISBN 90 70916 6 49 (publications@ifla.orgより注文可能)

クリステル・ヘルマーク (Hellmark, Christer) 『タイポグラフィ－ハンドブック (Typografisk håndbok)』
オスロ スパルタカス (Spartacus) 2000 年
ISBN 82 430 0153 0

クリステル・ヘルマークの本 (『タイポグラフィ－ハンドブック (Handbook on typography)』 英語版) は有名で、すべての北欧諸国でよく利用されている。検索すれば、英語による解説や記事を見つけられるだろう。

マーガレット・A・マーシャル (Marshall, Margaret A.) 『図書館と障害児 (Libraries and the Handicapped Child)』
ロンドン アンドレ・ドイチュ社 (André Deutsch Limited) 1981 年
ISBN 0-233-97299-4

アン・ペロウスキー (Pellowski, Anne) 『子供向けの布の本の作り方－個人用の本を作るためのガイド (How to make cloth books for children - a guide to make personalized books)』
ペンシルヴァニア チルトン・ブック・カンパニー、ラドナー (Chilton book company Radnor) 1992 年
ISBN 0 8019 8398 3

参考図書（英語では入手できないもの）

ヨハンネ・エミリー・アンダーセン (Andersen, Johanne Emilie) 『恋するジュリー
(Julie er forelsket/Julie is in love)』

オスロ オルカナ (Orkana) 2003 年

ISBN 82 81 040001 7

ビルギッタ・アーレン (Ahlén, Birgitta) 『本の世界へ飛び込め! (Hoppa in i
böckernas värld!/Jump into the world of books)』

ルンド (Lund) BJT フォーラグ (BJT Förlag) 1998 年

ISBN 91 7081 412 7

ビルギッタ・アーレン (Ahlén, Birgitta) 『本の世界へ飛び込め! (Hoppa in i
böckernas värld!/Jump into the world of books)』

ルンド (Lund) BJT フォーラグ (BJT Förlag) 2005 年

ISBN 91 7081 540 1

インゴルヴ・オースタッド (Austad, Ingolv) 『読みやすい図書と読みやすさ—解読しや
すく、理解しやすい図書 (Lettlestbøker og lesbarhet - bøker som er lette å avkode
og lette å forstå/Easy-to-read books and readability - books that are easy to
decode and easy to understand)』

オスロ ノルスクラレレン (Norsklæreren) 5/1994

ビーレンバーグ・ソホール (Søhoel, Bielenberg) 『さわる本の出版 (Utgivelser av
taktile bøker/Publishing tactile books)』

オスロ スペシャルペダゴジック (Spesialpedagogikk) 10/93

クリステル・ヘルマーク (Hellmark, Christer) 『タイポグラフィ・ハンドブック
(Typografisk håndbok/Handbook on typography)』

オスロ スパルタカス (Spartacus) 2000 年

ISBN 82 430 0153 0

(マン・リデン (Lidén, Manne) 『ピクトグラムの構文 (Pictogrammens syntax/The
syntax of pictograms)』 スペシャルペダゴジック (Spesialpedagogikk) 7/1988)

ミー・モーリンおよびマグネ・メドウス (Mohlin, Mie and Magne Medhus) 『高機能自閉
症とアスペルガー症候群—成人のための入門書 (Høytfungerende autisme og Aspberger
syndrom/Highly-functioning autism and Aspberger syndrome)』

オスロ オムニパックス (Omnipax) 2005 年

ISBN 82 530 2847 4

ニーナ・アスクヴィグ・ライダーソン (Reidarson, Nina Askvig) 『すべての人のための
図書 (Leser søker bok/Reader looking for a book)』

オスロ ノルウェーノンフィクション作家・翻訳家協会 (Norsk faglitterær forfatter
- og oversetterforening) 2002 年
ISBN 82-90801-12-2

トリル・ストーヴェストレ (Storvestre, Torill) 『少数民族のための読みやすい図書
(Lettlest for fremmedspråklige/Easy-to-read for ethnic minorities)』
オスロ 「すべての人のための図書」財団に対する報告書 (Rapport til Leser søker
bok) 2006 年